

廣 田 弘 毅

HIROTA Summation-FF
FF-1

一 通 問 一 記 的

被告廣田ハ一九三〇年十月十五日ヨリ一九三二年十一月十九日ニ至ル間「ソビエツト社會主義共和國聯邦」駐劄大使ヲ、一九三三年九月十四日ヨリ一九三六年四月二日ニ至ル遼外駐大使ヲシテ居リマシタ。一九三六年三月六日首相ニ任命セラレ、一九三七年二月二日廣田内閣ノ瓦解ニ至ル迄其ノ地位ニアツタノデアリマス。一九三七年一月二十日ノ政友會總會ハ宣言ヲ發シ國內閣ヲ採ツテ居タ政策ヲ批判シタノデアリマス。彼等ノ宣言シタトコロニ依レバ不手康ヲ防共協定ハ他ノ列強ノ模範ヲ損来シ又尋常時世間及ビ純官僚的進歩ノ建立ハ利ヨリヲ害スル事カ多カツタノデアリマス。廣田内閣ノ政策ハ多クハ國民ノ福祉ヲ考慮トシタモノデアナク、官僚及ビ軍部ノ私利私欲ニ影響サレテキルモノデアアルコトヲ非難シタノデアリマス。(c) 二通問後ニ廣田内閣ハ瓦解シタノデアリマス。

註 記 録 書 見 ハ 英 文 ノ 頁 番 號 デ ア ル

FF-1

法廷証二二〇八一A 法廷証一 三〇九二

P-1

2-11

3 次 交 換 行 列 入 行 列 交 換

[illegible]

カ / ヲ ヱ

相模定ノ爲メ國カレル重長ヲル各月迄内國合列ニ席
 一 九月四〇年七月以九位ノ重長田八〇年八月迄内國合列ニ新
 三 月十内ニ於テル外任命セラレ一三七八年六月廿九日
 此ノ内ニ於テル外任命セラレ一三七八年六月廿九日
 日 際ハ外ニ至ル迄外任命セラレ一三七八年六月廿九日
 廣田ハ外ニ至ル迄外任命セラレ一三七八年六月廿九日
 能ハツタノ最早ハ其ノ内ニ於テ一三七八年六月廿九日
 ニ於テ田ハ最早ハ其ノ内ニ於テ一三七八年六月廿九日
 ナリテ田ハ最早ハ其ノ内ニ於テ一三七八年六月廿九日
 議士ニテ田ハ最早ハ其ノ内ニ於テ一三七八年六月廿九日
 侍ニテ田ハ最早ハ其ノ内ニ於テ一三七八年六月廿九日

HIROTA Summation-FF

アルト通ベラレタル首相（長田）外務、大藏、
陸、海軍諸大臣ノ一九三六年八月七日ノ決議ニ見
ラレルノデアリマス。^(c) 右ハ見解ニ依リテハ「國
防」トハ單ニ、侵略的目的ノ爲ニ武力ヲ行使スル
事ノ範圍ナク云ヒ通シニ通ギナイコトヲ明ラカニス
ルノデアリマス。彼ハ一九四〇年六月迄ハ右ノ意
度ヲ取リ來ツタ事ガ明ラカニサレルノデアリマス
ソレ以テハ彼ハ絶エズ軍人ヲ首相ニ推舉シタノデア
アリマス。彼ハ、屢々平和演説ヤ諸外國ノ説明ヲ
ナシテキタ人物デハアルガ併シ彼ノ眞ノ意圖ハ微
頭微尾、日本ノ勢力ヲ武力増廣ヲ背景ニシタ外交
ニヨリ出來得ル限リ擴張スルコトデアツタノデア
リマス。最後ニ、ソレガソノ延長ニ通シタ時、彼
ハソノ政局ヲ實際武力ヲ用ヒ得ル者ニ依リテ引渡
シタノデアリマス。

二、駐蘇大使時代ノ回顧ト爾後ノ外相、首相時代ノ態度

FF-4

一九三一年既ニ廣田ハ其ノ蘇聯邦駐節大使在任中一陸軍少將原田トノ會談ニ於テ蘇聯ニ對スル彼ノ見解ヲ述べタノデアリマス。其ノ見解ノ中デ日本ガ蘇聯ニ對シテ取ヲ開始スルカドウカハ別トシテ右ニ關シ日本ハ強硬政策ヲ執ル必要ガアリ又何時ニテモ戰爭ニ應ズル準備ヲシテ置ク必要ガアルト述ベテキルノデアリマス。斯ノヤウナ政策ノ主要目的ハ共產主義ニ對スル防禦デハナクシテ寧ロ「東部シベリヤ」ノ征服ニアツタノデアリマス。(a)然シ等原證人ハ、右ノ事ハ廣田ノ正式ノ意見デハナカツタノデアルカラ之ヲ言ツタノハ何カ他ノ動機ヲ有ツテキタニ相違ナイト述べタノデアリマス。(b)

FF-5

一九三一年十二月「リトヴィノフ」ハ日華間ニ不侵略條約ヲ締結スルコトニ關シテ蘇聯ノ爲メニ申入

FF-4

a 法廷證 六九三 法廷記録 七四五〇
b 法廷證 二六七一 法廷記録 二二二一八

0159 0008 1083

HIROTA Summation-FF

ヲナシ來ツタノデアリマス。(a) 一九三二年十月十五日廣田ハ日蘇中立條約ノ締結ニ關スル新聞ニ對シテノ聲明中ニ若シ斯カル條約ガ日本ニ何等カノ恩惠ヲモタラスモノトク豫測ガツケバ石ノ如キ條約ノ締結モ可能デアラウト述ベタルモ、(b) 日本ガ蘇聯ノ提案ニ對シ拒絶的ナル句調ノ回答ヲナスマデニハ一年經過シタノデアリマス。一九三二年十二月十三日此ノ回答ニ於テ、日本ハ本問題ニ關シテノ公式交渉ノ開始ハ末ダ時宜ヲ得ザルモノト述ベタノデアリマス。(c)

FF-6 一九三三年一月四日「ソヴィエト」政府ハ不侵略條約ニ關スル彼等ノ申出ヲ日本側ガ拒否セルニ答ヘテ再ビ日本政府ニ覺書ヲ手交シタノデアリマス。(a) 而シテ之ニ見ヘテ、一九三三年二月十三日ニ本提案ハ再ビ日本政府ニ依テ拒否サレタノデアリマス。(b)

FF-5 a 法廷證 七四四 法廷記録 七七一
b 法廷證 二二三 法廷記録 二八三八一

c 法廷證 七四五 法廷記録 七七一九

FF-6 a 法廷證 七四六 法廷記録 七七二〇
b 法廷證 七四七 法廷記録 七七二七

一九三三年六月二十六日ハ、廣田ノ外務大臣任命ニ先立ち、「ソグイエト」ガ買却ノ希望ヲ見セテ居タ東支鐵道ヲ日本ガ買收スルニ關シ日本ト「ソグイエト」聊邦間ニ交渉ガ開始サレタノデアリマス。(a) 最初ハ買立價格ノ不一致ノ爲ニ支障ガ起キタガ、結局一九三四年八月當時外務大臣ニ就任シテ居タ廣田ガ「ソグイエト」聊邦ト妥協シテ一九三五年三月二十三日ニ契約ガ調印サレタノデアリマス。(b) 廣田ハ一九三五年一月二十二日ニ演説ヲ行ヒ鐵道讓渡ノ取極メラ喜ビ告ゲタノデアリマス。(c) 且ツ祝賀ノ覺書ガ手交サレタノデアリマス。「リトグイノフ」ハ外國通信員ニ對スル聲明ニ於テ交渉ノ成立ヲ歡ゾ旨表明シタノデ(a)アリマス。然シ年ヲ、之等交渉ニハ日本側ヨリ相當ナル壓迫ガ加ヘラレタノデアリマス。例ヘバ一九三四年十月二十三日ニ、哈爾濱ノ「ロシヤ」領事館ハ日本外務省代表者ニ對シ東支鐵道ハ攻撃、路線及ビ財産ノ破壞、鐵道代理人ノ殺害ヲ極リ而モ過敏ノ抗議ニモ河ラス何等ノ矯正の處直

FE-7	a	法廷證三二五二	法廷記録三二四三六
	b	法廷證三二四	法廷記録三二四二九
	c	法廷證三二四七	法廷記録三二四九一
	d	法廷證三二五二	法廷記録三二六一六

1A

HIROTA Summation-FF

モ^(e)深^(e)ラレテ居ナイト強硬ニ抗議シテ來タノデアリマ
ス。^(e)更ニ又一九三四年十二月十五日ニハ東支鐵道副
理事長ハ理事長李紹庚 / Li Shao Geng / ニ對シ東支
鐵道所屬ノ宿舍及ビ建築物ガ度々不法徵發セラレタ
ノヲ例トシテ擧ゲタノデアリマス。^(f)

FF-8

廣田ト滿洲國ガ交換シタル覺書ハ日本ガ東支鐵道
買收ノ契約ヲ滿洲國政府ガ履行スルコトヲ保障シタ
コトヲ立證シテキルノデアリマス。^(a)

FF-7

e 法廷證 七四八
f 法廷證 七四九

法廷記録 七七三九
法廷記録 七七四二

FF-8

a 法廷證 四四三 I A

法廷記録 四〇四二

PF-10

封蔵反抗ヲ目的トスル諸般ノ決議立ニ手段ニ廣
田ガ参畫シタコトハ華北ヲ特別防共親日地帶トシ、
一、万ヤガテハ全中國ヲ親日、反蘇ニセントノ一九
三六年四月四日ノ四相決議ヨリ看取シ得ルノデア
リマス。(a)

PF-9

一九三五年一月二十三日ノ演説ニ於テ廣田ハ日
本自身ハ極東國境ニ軍事施設ヲ新設シテキナイニ
モ拘ラズ、露邦ハ反日報道ヲ發表シテキルト非難
シタノデアルガ、(a)然モ一方白鳥ヨリ有田ニ宛テ
タ一九三五年十一月十二日附ノ電翰ハ日本ガソレ
ニモ拘ラズ、露邦ハ侵略野望ヲ抱イテキタコト並
ニ之ハ國算部内ハ勿論外務省ニ於テモ抱懷サレテ
キタコトヲ明ラカニシア后ルノデアリマス。(b)

PF-10

a、法廷証 七〇四 法廷記録 七五二三

PF-9

a、法廷証三三三
b、法廷証七〇一A 法廷記録 七八八三
法廷記録二六四五六

PF-11

一九三六年七月二四日附ノ外務省調製ノ報告書ニ於テ「日獨政治協約ノ問題」ガ批評サレテアリマシタ。獨逸トノ條約ノ主要目的ハ共產主義ニ對ヘル防衛並ニソ聯ノ脅威ニ對抗ヘル手段デアルト引證サレタガ、實際ノ條約ハ屢々「日獨提携」トシテ言及サレテ居リ、^(a)シカモ又一方、國人有田ハ農田ガ獨逸トノ同盟政策ニハ同意シナカツタシ又コノ問題ニ關シ陸軍ト意見ヲ同シクシナカツタコトラ強硬ニ主張シタノデアリマス。^(b)

PF-12

一九三七年八月七日及ビ十一日石ノ政府ノ決定及ビ疑言セラレタル策ガ自議セラレ「ロシヤ」ノ脅威ノ絶滅ガ決定セラレタノデアリマス。^(a)

PF-11

c、法廷證三一六七
d、

法廷記録ニ六七八三
法廷記録ニ〇〇一四一六

PF-12

a、法廷證 二一六
法廷證 九七九

法廷記録 二七二〇
法廷記録 九五四九

CC-I6

a 法廷證四九二 法廷記録六〇三三
b 法廷證四八三 法廷記録五九五六

FF-I5

a 法廷證四八五 法廷記録五九六七

FF-I7

一九三八年一月十五日開催ノ連絡會議ニ於テ
近衛ハ陸軍參謀本部ガ、ソ聯攻撃ノ準備ノタメ
ニ、中國ニ於ケル敵對行為ノ休止ヲ唱道シテキ
ルトコト又參謀次長ガ同日ソノ後行ハレタ閣議
ニ於テ、蔣介石トノ直接交渉ヲ唱道シサヘシタ

FF-I6
一九三七年十一月十二日ニ廣田ガ外相トシテ
防共協定擴張問題討論會ニ出席シタ折彼ハ、此
ノ協定ハ偏ヘニ共產主義ニ對スル協定デアルト
云フコトヲ繰返シ述べタ。(a)デアリマス。而モ
彼ノ直屬デアアル處ノ外務省情報局ハ此ノ擴張ノ
締結ニ關シ聲明ヲ發シ、協定ノ真ノ目的即チ之
ハ決シテ或ル特定ノ國ヲ對象トシテ居ルモノデ
ナイト云フコトガ全テノ若ニ了解サレナカツタ
ノデハナйкаトノ懸念ヲ表シテ居ルノデアリマ
ス。(b)

FF-I5

ツイテ一九三六年十一月二十五日ニ、廣田ハ
樞密院會ニ出席シタガ同席上テ防共協定締結
ハ滿場一致デ允許サレタ。(a)デアリマス。

FR-18

III 日本ノ華府海軍協定海軍軍備制限並
ニ其ノ九ヶ國條約侵犯
一九三四年十二月二十九日 山田外務大臣當
時、日本ハ一九三六年十二月ヨリ華府海軍協定

FR-17

a 法廷證三七八―A 法廷記 三七八一
b 法廷記 二二三―七
c 法廷證三七〇―A 法廷記 三七三六
d 法廷記 三七八―C 上

コトヲ洩ラシテキマス。(a) 河津ハ、會合ニ於テ
相當ノ議論ガアツタコトヲ想起シテキルノデア
リマスガ、ソノ理由ヲ明示スルコトガ出來ナカ
ツタノデアリマス。(b) 更ニ、貴軍ガ露西亞攻
撃準備ノタメ軍隊ノ進軍中止ヲ唱道シテキタコ
トラ廣田ハヨク知ツテキタニ相違ナイコトハ、
一九三八年二月十四日ノ原田日記ヨリシテ明ラ
カデアリマス。(c) 原田ハ當時外務大臣デアツ
タ堀之内ガコノ陳述ヲナシタト認メテキルノデ
スガ、堀之内ハ尋問ノ際之ヲ思ヒタスコトガ出
來ナカッタノデス。(d)

FF-18

d	c	b	a
		法廷證三七七七一B	法廷證九四二
		法廷記三六六八	法廷記一〇六
		法廷記二六六八	法廷記一〇一五
		法廷記二六七〇三	法廷記九四一六

ヲ脱退スルアル旨通告シタノデハ。(a) コノ廢棄
ニ關シ、原田ハ一九三四年九月七日ノ日記デ岡
田首相及ビ廣田外相ガ次ノ如ク言ツタト述ベテ
ヲリマス。即チ「要スルニ、草案ニ於テ、我々
ハ比率ニ全然反對シタ。ソレ故我々ハ他ノ諸國
ガ如何程我が提案ニ同意シヨウトモ之ヲ廢棄セ
ネバナラヌ。我々ハ無條件ノ立場ヲ採ラントシ
テキル。」(b) ト辯護側證人近藤ガ此ノ記述ニ出
喰ハシタ時、彼ハ最初之ヲ眞實ト容認シタノデ
スガ。(c) 後ニ再直接尋問ノ際、彼ハ原田ナリ岡
田ガ斯ルコトヲ言ツタト云フコトヲ明白ニ否定
シタノデアリマス。(d) 同ジ日ニ「グルー」大使
ハ國務長官「ハル」ニ打電シ、樞密院ハ兩場一
致華府海軍協定廢棄ノ決意ヲ可決シタソレデ彼
ハ廣田ガ倫敦會談閉會後迄、日本ガ之ヲ失敗サ
セタト非難サレヌ様ノ公式通告ヲ延期スルコトヲ欲シ

PF-18

法廷證 五八

f 法廷證 三二四七

法廷記錄 九一九九

法廷記錄 三六五九一

テキルト云フ印象ヲ受ケタト述ベテキルベス。(9)
然ルニ拘ラズ、廣田ハ一九三五年一月二十二日
第六十七議會ニ對スル演說ニ於テ、前カル概退
ハ日本ガ如何ナル軍備擴張ニモ果出サントスル
意圖デアルト云フ證左トシテトラレキモノ
デハナク、反對ニ日本ハ華府協定ニ次グ今一ツ
ノ締結ヲ熱望シテキルモノデアルト主張シテキ
ルノデス (f)

然シテガラ新ナル條約ハ、等ニ一九三六年一
月ノロンドン海軍會議ニ於テ、日本ガ三一五一三
ノ比率ノ代リニ共通ノ高並限界ヲ主張シテキルコ
トニ違ミ、實現ノ見込ハ殆ンドナカツタノデアリ
マス。尙右主張ハ、勿論、英國及米國ガ世界ノ他
地方ニ於ケル其ノ責任ヲ怠ルニ非レバ、日本ハ太
平洋ヲ支配スルト云フ事ヲ意味シタモノデアリマ
ス。^(a) 他ノ諸國家ニヨル、コノ提案ノ受諾拒絶ノ
結果、日本ハ該會議ヲ脱退シテキマス。^(b) 之等交
渉ノ様子及ヒ其ノ失敗ニ關スル彼ノ理由トスルト
コロ^(c)ハ、辯護側ハ人種本ニヨツテ過ベラレテキマ
ス。

FR-20 日本ハ追加建造計畫ニヨリソノ海軍々備ノ擴張ヲ續ケタノデアリマス。一第三次追加計畫一ト題スルモノハ、一九四一年末迄ニ總噸數二十三萬三千噸ト外ニ三十四隻ノ補助艦艇ノ建造ヲ目的トシタモノデアリマス。此ノ計畫ハ、艦人近衛ニ依レバ、合衆國^(a)ノ増加海軍生産ニヨリ助長サレタノデアリマス。尤モ彼ハ合衆國ガ西歐艦隊^(b)ノ重

FR-19
c b a
" " 法 延
三九二
〇四二
一 五二
一 六

通假字表

MR-20 a, 磁通量 100 K

進取退守 日 〃 〃 〃 日 一 〃 〃

HIROTA Summation-FP

FR-22 FR-21 FR-20

a、法定
a、法定
a、法定

一三三九
三三三
三三三

法廷記録 一一一八四

FR-22

一九三八年ニ廣田「グルー」間ニ交換サレタ文
書ニ於テ、日本ハ英國及ビ米國邊起ノ海軍製造ニ
關スル報告ノ相互交換案ヲ拒絶シタノデアリマス
ガ、シカモ偵察行動ニヨリ米海軍力ヲ偏カメント
シタノデアリマス。(a)相互交換ノ新カ、ル試ミハ
一九三八年二月五日「グルー」ニヨリナサレタモ
ノデス。彼ハ、日本ハ倫敦海軍條約ニ署名セルモ
ノニハ非ルモ、米國ハ海軍力トシテ、海軍力ニ非
ル國ガ本條約ノ定ムル限界ニ達カスシテ設置シテ

FR-21

合衆國ガ主力艦ノ龍艦ハ制限サレオバナラマト
廣田ニ達言シタ際、彼ハ一九三七年六月七日答へ
テ、此ノ點ノ協カヲ拒ミ、青島トナル如キ海軍力
製造ハ之ヲナサストスル日本ノ取策ヲ繰返シ、而
年ノロソドシ海軍集積會議ニ於テ日本提出ノ原則
ヲ固守シタノデアリマス。(a)

P-16

ナル旨成ニ對シテモ準備シテキタニ、右軍備ガ日
本ニ對シ向ケンコトハ明ラカゾナイコトヲ認
メテヒマス(b)

HIROTA Summation-FF
FF-23

ル場合ハ、停船權ヲ有スルガ故ニ、主權ノ行使ニ
關スル報告ヲ要求シタノデアリマス。彼ハ又日本
ガ其ノ意圖ヲ米國ニ通告スルコトナク一九四三年
一月三日以前ニ、此ノ限界ニ達カザル如何ナル艦
船モ之ヲ建造セザルコトヲ米國ニ確信セシムルコ
ト、然ラザレバ合衆國ハ停船權ヲ使用セザルヲ得
ヌ旨要求シタノデアリマス。(b)

一九三八年二月十二日、廣田ハ「グルー」ノ覺
書ノ受領ヲ認メ、ソノ返答ニ、量的制限ヲ伴ハザ
ル質的制限法ニヨリ公平ナル軍縮ヲ得ルコト不可
能ナリトスル日本ノ見解ヲ繰返シ述べタノデアリ
マス。ソレ故、日本ハ艦船建造ニ關スル通告ヲナ
スコト不可能ナリト爲シ又コレニ關スル合衆國ノ
要求ニ應ズルコト不可能ト爲シタノデアリマス。(a)

FF-22

b、法廷証 五八

法廷証 三三三二

FF-23

a、法廷証 五八

法廷証 三三三三

FF-24

廣田ガ海軍制限乃至ハ情報ニ關スル措置全テヲ
鄭重ニ拒否シテ居ツタノト丁度時ヲ同ジウシテ日
本政府ハ何レモ條約制限ノ三万五千屯、十六吋ヲ
超エル戰艦大和型ニ武藏ノ建造ニ着手シテキタノ
デアリマス。(a) 然モ、廣田ハ、一九三八年三月四
日、第七十三議會演說ノ中デ將來列強間ニ海軍々
備縮少ヲ議スル機會ガアレバ好都合デアルト述ベ
タノデアリマス。(b)

FF-25

一九三四年四月二十六日、廣田ハ在米英ノ日本
大使館ヲ始メトシ、各國日本大使館ニ、日本ノ九ヶ國條約ニ對
スル態度トイフ問題ニ關スル英國大使「リンドレイ」ト
ノ會談ニ就テ打電シタノデアリマス。廣田ハ、日
本ハ未ダ嘗テ九ヶ國條約ニ違反シタコトモナケレ
バ、又斯カル意圖ヲ持ツタコトモナイト主張シタ
ノデアリマス。(c) 然ルニ廣田ガ外務大臣在任中デ
アル一九三七年十月六日ノ除聯盟總會ノ採決シ
タ第一回報告ハ、日本ノ行爲ヲ一九二二年ノ九ヶ
國條約及ビ一九二八年ノ「パリ」條約ニ違背スル

FF-24

a、

法廷證

九一三

法廷記録

九四二〇

FF-25

b、

法廷證

三二八九

法廷記録

三〇〇〇ニ

FF-25

a、

法廷證

三二四四

法廷記録

二九五八ニ

FF-27 FF-26FF-25

b、	a、	a、	b、
法廷證	法廷證	法廷證	法廷證
三	三	九	九
九	二	五	六
五	八	四	二
四	三	A	
B			
法廷記録	法廷記録	法廷記録	法廷記録
二	二	九	九
九	九	四	四
四	五	四	七
六			四

日本國內情勢ニ有害ナリシヲ以テ、該會議ヘノ参

FF-28

該拒絕ハ證人堀ノ内ガ説明シテキル、彼ハ再度
コウ述べテキル、即チ「ブラッセル」會議参加ハ
日本國內情勢ニ有害ナリシヲ以テ、該會議ヘノ参

拒絕シタノデシタ。(b)
日本ハ日本ノ意見デハ、中國ニ於ケル行動ハ九箇
國條約外ニアル旨ヲ述べテ十月廿七日附、招請ヲ
拒絕シタノデシタ。(a)
ニ表示セザリシコトニ鑑ミ、外務省ガ其ノ招請ヲ
拒否スルト言フ可能性ハ充分アツタノデシタ。
述シテキマス。該會議ガ國際聯盟ノ決議及ビ十月
六日附ノ合衆國ノ聲明ニ根源スルモノニ非ズト特
ニ事實上意見ノ一致ヲ見テキル旨ヲ洩ラシタト記
記ニ、ブラッセル會議参加ノ這言ガ日本ニ對シナ
サレテルノニ、廣田ハ政黨主腦部ハ該會議不參與
ニ事實上意見ノ一致ヲ見テキル旨ヲ洩ラシタト記

FF-27

一九三七年十月二十一日、「グルー」ハ其ノ日

FF-26

モノト斷ジテ居ルノデアリマス。(b)
一九三七年十月二十日外務省ハ、白耳義大使ガ
廣田ニ十月三十日「ブラッセル」ニ於テ開催サレ
ル九ヶ國條約調印國會議ヘノ出席招待狀ヲオクツ
タコトヲ發表シタノデアリマス。(a)

FF-29 FF-28

a, 法廷證 三三八〇 法廷記録 三九六九八
a, 法廷證 三三八四 法廷記録 三九六九七

FF-29

一九三七年十一月十六日、廣田ハ、「ブラツセ
ル」會議ノ最終決定ハ日卒ニ對スル共同行動ヲ企
圖シタモノデアルトノ報道ニ關シ、若シ日本ノ新
聞ガ斯カル報道ヲ探知スルナラバ輿論ニ對シ不幸
ナ結果ヲ招來センコトヲ恐ルトテ其ノ懸念ヲ「グ
ルー」ニ述ベテキマス。廣田ハ、日本ハ日華事變
ニ於ケル好箇ノ仲介者ハ合衆國デアルト考エテキ
ルコトヲ附ケ加ヘテキマス。(a)

加拒絶ハ九箇國條約ニ反セルモノデハナイ、ト。

(3)

HIROTA Summation-FF

IV. 廣田ノ對滿政策

FF-30

廣田ハ一九三三年十二月二十二日滿洲國ニ帝政ヲ
敷クヨウ指導スベシトノ決議ヲシタ内閣ノ閣員デア
リマシタ。宣言書ノ草案ハ日滿不可分ノ關係ヲ明瞭
ナラシムベシ。(a) 一方一九三四年一月二十三日ノ演
説ニ於テ獨立國トシテノ滿洲國ノ創立ニ關係ヲ過ベ
マシタ。(b)

FF-31

一九三四年三月一日溥儀ハ滿洲國皇帝トナリ、
此ノ旨ノ勅語ガ發布セラレ、又滿洲國官報ニ於テ宣
言ガ發表サレマシタ。(a)

FF-32

一九三四年三月二十日同内閣ハ日滿經濟行政ニ
スル決議ヲシマシタ。此ノ決議ニ於テ同政策ハ日
本ノ世界的經濟發展ノ確立ヲ含ムト過ベテキマス。
一方滿洲國內ノ總生産ニ他ノ企業ハ日本帝國ノ要求
ニ依リ發展セラルベキコト、國際ハ日本帝國ノ力ト

FF-30

a、	法廷宣	二三〇	法廷記録	二九三六
b、	法廷宣	二三三	法廷記録	二九一三

FF-31

a、	法廷宣	四三七 A	法廷記録	三〇一四
	法廷宣	三四二六	法廷記録	三〇一五

FF-34

施

分門-3 一九三四年八月九日日本政府ハ若シ滿洲國ガ充ナル發展ヲ遂ゲルコトヲ許サレルナラバ日本ノ治外法權ヲ撤廢スル必要ガアルトノ聲明ヲ發表シマシタ。是ノ事ハ在舊日本人ノ生活ノ急激ナル變化ヲ遭ケルタメニ漸クテ遂行サルベキコト(a)

農田ガ外務大臣タリシ一九三四年十二月二十六日ニ對清事務局ノ官制制定ノ勅令ガ發セラレ、同局ハ首相ノ管轄下ニ入り、關東州局ノ事務、各省ノ滿洲行政事務ノ調査及ビ滿鐵管理ノ如キ事務ヲ取扱ヒマシタ。ドノ程度ニ滿洲國ガ獨立ヲ得ルコトニナツテキタカハ四名ノ行政官吏ガ内閣ニヨツテ臨時軍將校中ヨリ任命サレタ事實カラ知ラレルノデアリマス。ソシテ、關東軍指令官ト滿洲國駐劄大使トヲ結合シテニツクニスル統一ガ行ハレマシタ。秦島ハ反對派間ニ於テ外務大臣ガ滿洲國駐劄大使ニ對シ直接

2	法蘭西	二二六	法蘭西記	二九四
2	法蘭西	二四三	法蘭西記	一九四
2	法蘭西	四四一	法蘭西記	二二一

HIROTA Summation-FF

FF-34

監督ヲ有セシコト並ニ一九三五年ノ滿洲國駐劄大使
南ガ、當時ノ外務大臣被告廣田ノ訓令ニ反シテ行動
シタ事例ハ一ツモ記憶セザルコトヲ認メマシタ。(b)

b、 延建重 四三 延建記 三一一三

FF-36

一九三五年一月二十一日、廣田ハ演說ニテ治外
法權ニ關スル經過ヲ概ミ且ツ、コレヲノ治外法權
ノ漸次擴張ヲ説明シマシタ。(a)

日本ハ滿洲國ノ獨立ニ對スル希望ヲ公表セシニ
モ拘ラズ、日本ノ滿洲國ニ對スル眞ノ政策ハ被告
廣田列席ノ一九三五年七月三日ノ樞密院會議ニ依
ツテ知ルコトガ出來マス。日滿共同經濟協約締結
審議ノ爲メ開催サレタ此ノ會議ニ於テ、廣田ハ委
員會ノ形成ニ關シ、同委員會ハ各國カラ四名宛出
シテ編成サレ且ツ滿洲國ノ對當ノ中ノ一人ハ日本
人タルコトニ定メラアルニ依リ、兩國間ニ意見
相違ノ場合、日本ニ不利ナル決定ハ無カルベシト
述ベテ居リマス。(a) 一九三五年七月十五日、廣
田ガ外相ノ際、上記ノ日滿經濟協約ハ署名サレマ
シタ。(b)

a、法廷証	二四三	法廷記録	一九七二八
a、法廷証	八五〇	法廷記録	八四一七
b、法廷証	四四五	法廷記録	五〇五五
法廷証	八五一	法廷記録	八四三三

0159 0000 1103

FF40FF39-FF38 PF37

FF-40

FF-39

FF-38

FF-37

a、法廷証
a、法廷証
a、法廷証
a、法廷証
b、法廷証

二三七
四三八
三三九
二四七六
九四四

A、B、C、D 法廷証三〇四七三

法廷証 二九四四
法廷証 五〇一八
法廷証 二九六〇
法廷証 二〇四七三
法廷証 九四一八

：滿洲國ニ於ケル治外法權ヲ振廢スル日滿條約ガ
調印セラレタ時、廣田ハ首相デアリマシタ。(a)ガ
コレハ米國ト中國トノ間ニ締結セラレテキル條約
ニ依リ長ヘラレテキル米國人ノ諸權利ヲ侵害スル
外人ニ歸スル布告ヲ包含シテオリマシタ。(b)スル

一九三七年十月二十二日、廣田ガ外務大臣ノ際
滿洲國ノ重工業建設ノ輪郭ヲ定メル内閣ノ決議ガ
行ハレマシタ。(a)

一九三七年八月三日、廣田ガ外相ノ際、日滿協
約ガ締結サレ、之ニ依リ滿洲開發會社ガ兩口間ノ
嚮導ヲ更ニ強化スル爲ニ組織サレマシタ。(a)

一九三六年八月十日、滿洲國在ニ日本人ノ居
住並ニ租税等ニ關シ日滿間ノ條約ガ署名サレマシ
タ。此ノ條約ハ結局、日本人ニ旅行シ商業農業及ビ
工業ノ職業ニ從事シ又土地ニ關スル凡ユル權利ヲ
享受スル權利ヲ與ヘル日本人ト滿洲國人トノ完全
ナ平等待遇ノ代リニ滿洲國政府ニ南滿洲鐵道地帶
ノ行政權ヲ與ヘルト云フ意味デアリマシタ。(a)

日華紛争前ノ廣田ノ對華政策

MP-41

廣田ガ一九三三年九月十四日ヨリ一九三六年四月二日迄外相トシテ、一九三六年三月九日ヨリ一九三七年二月二日迄首相トシテ在任中、彼ハ遂ニ中國事變トナシタ中國ニ於ケル高麗ノ緊張及ビ不安狀態ヲ計畫シ且ツ外交手段ト直接接觸トニヨリテ之ヲ準備シタ全歐的共同談話ノ一員ヲアリマシタ。右數年間日本政府ハ、實際ノ武力行使ヲ避ケル一方、結局ハ國ヲ大東亞共榮圈ニ包括スルコトヲ目指シテ計畫ヲ立テ又武力行使ノ脅迫ヲ持ツ態度ヲ講ジマシタ。

MP-42

一九三五年一月二十二日及ビ一九三五年三月一日ノ演説及宣言ニ於テ、廣田ハ甲乙ニ於ケル平和ノ宏定ニ對スル希望及ビ日華平等ノ信念ヲ叫ブ一方、(a)彼ハ中國ニ自治政體ヲ樹立シ南京以權カラ東部諸州ヲ切斷シ以ツテ南京政權ヲ轉移化セシトスル華北ト關東軍ト、談話ヲ當時知ツテ甲乙ノ關係ヲアリマシタ。局ハノ狀態及ビ一九三五年六月十日ノ何一様津協定ヲ退ル狀況及ビソノ締結ハ領土ヲ支配シ紛争ヲ惹起スル口實ニ小事件ヲ利用スルコトノ一證左ヲ與ヘマス。天津ノ日本租界ニ於ケル二中國人ノ殺人

HIROTA Summation-FP

MP-42

a.

三二四〇
三二四一
三二四二

〃

廣田ノ演説

三二四三
三二四四
三二四五

0159 0000 1 105

HIROTA Summation— F F

ヲ口實トシテ、日本ハ中國憲兵、河北ノ國民黨事務所、及ビ他ノ機關ノ立退キ、乃チ將軍ノ引渡ヲ請ルシ、之等ノ要求ニ對シ中國側ハ屈服シマシタ。(b)コレニ満足セズシテ日本ハ更ニ強硬ヲ要求ヲシマシタ。(c)之ヲ石川ハ提案又ハ建言ニ過ギナイト述べマシタ。(d)桑島ハソレ等ハ最後通牒ノ性質ノモノデアルコトヲ認メマシタ。(e)右要求ノ許ニ中國ハ屈服シ、一九三五年六月十日何一梅津協定ハ締結サレマシタ。(f)

FF—43

華北自治政權ニ對スル本國ノ態度ハ、當時同地ニ起ツテ居ル政治的紛争ニ關シテ聲明ヲ發シタ、一九三五年九月二十五日、國務長官「ハル」ニヨツテ明ラカニサレマシタ。(a)

FF—44

然シナガラ、外務省ハ、北平日本大使館ノ若杉參事官ガ一九三五年十月二日廣田外相宛打電シテ冀ハ北支五省ヲ以テ南京政府ヨリ獨立ナル勢力國

FF—42

a	f	e	d	c	b
・	・	・	・	・	・
法廷証	法廷証				法廷証
二四九一	二四九一		二四九一	一九四	一九四
九三八	九三八	九三八	九三八	九三八	九三八
九四〇三	九四〇三	九四〇三	九四〇三	九四〇三	九四〇三

P-27

FF-43

a	f	e	d	c	b
・	・	・	・	・	・
法廷証	法廷証				法廷証
二四九一	二四九一		二四九一	一九四	一九四
九三八	九三八	九三八	九三八	九三八	九三八
九四〇三	九四〇三	九四〇三	九四〇三	九四〇三	九四〇三

HIROTA Summation-FF

FF-45			FF-44
C	b	a	a
.	.	.	.
"	法廷記	法廷記	法廷記
三二四二一A	三二四二	三二四二	一九七
"	"	法廷記	法廷記
二九五四二	二九五三七	二九五三六	二二八三

FF-45

証人桑島ハ東河北反共自治政標及河北一察哈爾
政治會議ガ實際ニ創立サレル迄ハ外務省ハ其事ヲ
何モ知ラナカツタト(a) 述ベテキルケレドモ、彼
ハ一九三五年十一月五日代理大使井發廣田宛、
日本軍當局ニ依ツテ育成サレタ獨立運動ノ進展ニ
關スル報告アリ、同報告ニ依レバ華北ハ既ニ日本
ノ支配下ニ入レリ。(b) トノ電報ヲ認メマシタ。
彼ハ又北支自治運動ニ關スル新聞切抜ノ送込ガ外
務省內デ同サレタコトヲ認メマシタ。其切抜ハ
陸軍有吉大使カラ一九三七年十一月二十七日廣田
外相ニ送ラレタモノデアリマス。(c)

家ヲ組織セン、意圖シツツアリトノ風評專ラナリト
報告シタニエ拘ラズ、是等ノ行動ヲ阻止スルタメニ
可算モ爲シマセンデシタ。
斯クテ日、滿、華北ノ一ブロック(a) ガ結成サレル
タロウ。

HIROTA Summation-WF

FF-46
新クノ如キ行動ガ相當進捗シテ居ルコトハ外務省ニハ明瞭デアツタニ相違ナイガ而モ何ノ處置モ取ラレマセンデシタ。
從ツテ、日本ノ華北ノ政治機構ヲ變遷シ自治ヲ樹立セントノ企圖ニ續キ、一九三五年十一月廿四日「^(a)戦争地帯自治準備委員會」ガ組織サレマシタ。

FF-47
一九三五年十一月廿五日、日本ハ遂ニ日本ノ支配シ管理スル冀東反共自治會ヲ、塘沽停戰協定ニヨリ設置サレタ冀東反共自治會ニ樹立シマシタ。同會ハ國民政府ヨリノ獨立ヲ宣言シマシタ^(a)
次デ、一九三五年十二月十八日、宋哲元大將ハ華北行政ノ爲メ樹立サレタ河北察哈爾政務委員會々長ニ任命サレマシタ。^(b)

FF-48
一九三六年一月十三日廣田外務大臣ハ陸軍日本大使ニ「北支指導計畫長綱」ヲ送りマシタ。該計畫ハ外務省ニ於テ作製サレ華北ノ自治、日本トノ協力等ヲ取扱フモノデアリマス。^(a)

FF-48FF-47FF-46

a、法廷證	一一〇	法廷記録	二七〇二
a、法廷證	一一〇	法廷記録	二七〇二
b、法廷證	一一一	法廷記録	二七〇四
a、法廷證	一一五	法廷記録	二七一九

HIROTA Summation-PF

2-30

FF-49

一ツノ計畫ヲ準備シテ居マシタ。同計畫ノ立案
ノ安定ヲ担保スルコトヲアリマシタ。
是ハ「廣田ノ三原則」トシテ知ラレ、彼ハ最初之
ヲ陸軍領事館員ニ發シタ計畫中ニ述ベマシタ。
此等ノ原則ハ
(一)抗日行動ノ取柄
(二)滿洲國ノ獨立ノ承諾並ニ同國トノ文化促進ニ
(三)英米主義的傾向並ニ其ノ除去ヲアリマシタ (a)

十月四日首相、陸相、海相、外相及び陸軍二依
ツテ採用サレマシタ (b)
外交當局ハ秘密ヲ守ルコトニナツテ居リマシタ (c)
一九三五年十一月十四日、南京ノ袁良綱總領事ハ
廣田ニ日本軍ハ山海關附近ニ集結中ナルコト並
ニ「恐シム」ニテハ其大事件ヲ生ズルコトヲ
ルベキコト」ヲ密ニ報告シマシタ。(d)

a、	法廷證	三二五五
b、	法廷證	三二五五
c、	法廷證	三二五五
d、	法廷證	三二五五
a、	法廷證	三二五五
b、	法廷證	三二五五
c、	法廷證	三二五五
d、	法廷證	三二五五
a、	法廷證	三二五五
b、	法廷證	三二五五
c、	法廷證	三二五五
d、	法廷證	三二五五

HIROTA Summation-FF

復日後、十一月三十日原田ト會談ノ際、廣田ハ此ノ草案ノ永結ニ關シテ此等ノ草案ノ南方移動ハ陛下ノ命令ニ依ルダロウト述ベマシタ。然シ此ノ事實ハ同草案ヲ直接ノ感得ト考ヘル中國人ニハ秘密ニシテ知カナケレバナリマセンデシタ。ソシテ若シ同草案ガ感得ニ過ギヌコトラ知レバ中國人ハ面會ヲ起シ始メルダロウ。尙又若シ軍閥ガ中露ガ此ノ秘密ヲ知ツタト知レバ強硬手段ヲ採ルダロウ。(e)

FF-50 一九三五年十一月二十一日須磨ハ景雲ノ原則ハ有吉大使ニ依ッテ蔣介石ニ提出サレ蔣介石ハ同原則ヲ受諾シ何等「反英提案」ヲ出サナカッタト報告シタノデアリマス。(a)

FF-49 e	、法廷證	三七七九 A	法廷記録	三七、六七四
FF-50 a	、法廷證	三二五七	法廷記録	二九、六三五

HIROTA Summation-WF

P-32

FF-51

辯護側証人桑島ハ是等早期ノ内平運動ニ關スル
其ノ証言ニ於テ一九三五年五月ニ至ルマデハ日
關係ハ好轉シテ居タカ十二月ニ於ケル層有主ノ情
報未達ハ好轉シタル様ニ著シイ變化ヲモタラシタ
ト述ベタノデアリマス。(e) 且ツ天彼ハ反動新聞ニ
於テ交渉ノ障礙ハ支那僑ニ廻因スルモノデアリ
田ハ交渉ヲ繼續シタガツテ居タコトヲ述ベタノデ
アリマス。(b)

FF-52

以田ハ一九三六年一月二十一日國會ニ就スル演
説ニ於テ是等三原則ヲ公表シタノデアリマス。(e)
其ノ直後引續イテ陸軍部長ノ大森田ガ政府ノ側面
ヲ企圖シテ東京ヲ恐怖セシメタ斯謂ニ二六事件^(b)
シテ知ラレテキル事件ガ突進シタノデアリマス
桑島ハ其後録取セラレタカソレハ岡田内閣ノ崩壞
及一九三六年三月九日ノ演告原由ヲ首端トスル新
内閣ノ成立ニ就シタノデアリマス。(e)

FF-51
b

法廷記録ニロカニ
法廷記録ニカミミ一六
法廷記録ニロカニ
法廷記録ニカミミ一六
法廷記録ニロカニ
法廷記録ニカミミ一六
法廷記録ニロカニ
法廷記録ニカミミ一六
法廷記録ニロカニ
法廷記録ニカミミ一六

FF-52
c
b
c

法廷記録ニロカニ
法廷記録ニカミミ一六
法廷記録ニロカニ
法廷記録ニカミミ一六
法廷記録ニロカニ
法廷記録ニカミミ一六
法廷記録ニロカニ
法廷記録ニカミミ一六
法廷記録ニロカニ
法廷記録ニカミミ一六

000000 1110 6510

PF-53

員田ノ首相在職期間中ノ一九三六年十二月ニ所謂
綏遠事件ガ勃發シタノデアリマス。(c) 無關係人桑
島ハ、コノ事件ハ内蒙古ノ關東軍將校ノ活動ニ依リ
惹起セラレ、日華關係ノ變化ノ理由デアルト主張シ
タノデアリマス。(b) 彼ハ亦良田ガ外交的解決ヲ試シ
タ事ハ彼ノ政策ト一致シテ居ル故、當然デアラウト
述ベタノデアリマス。彼ハ又日本人ガソノ事件ガ實
際ニ起ルマデニソレニツイテ何ラカノ知識ヲ有シテ
キタト云フコトヲ否定シタノデアリマス。(c)

PF-54

一九三六年八月十一日、外務省及他ノ關係諸官廳
ハ「對外、對内國家政策、華北第二行政政策ニ關ス
ル重大決定」ト題スル計畫ヲ作製シタノデアリマス
コノ計畫ノ主要目的ハ蘇聯ノ侵略ニソテヘ又華北ヲ
日滿支那力並ビニ相互扶助ノ基盤トセンガ爲、反共
親日滿地帯ヲ作ルコトデアリマシタ。河北及ビ察哈
爾兩省ノ政府機構ヲ肅正シ日本ノ勢力ヲ強化スルコ
トニヨル冀察政務會ノ指導計畫並ビニ國內行政刷新
ニヨル冀察自治政府ノ指導計畫ガ立案セラレタノ
デアリマス。

P-53

PF-53

c	法廷証	三二四一	法廷証	二六三三六
b	法廷証		法廷証	二六四三三 一四
c	法廷証		法廷証	二六三三六 一六〇

F-54
臺北ニ在スル日、石炭、土ハ「我々」ノ国防ニ使用
サレルベキダト明示シテ、同地方ノ經濟開發ニ帶ニ
注意カ向ケラレタノデアリマス。(a)

FF-55
四、日華事變ノ物發並同事變係決メ全口
一九三七七年七月七日ニ日華事變ガ勃發シタノデア
リマス。(a)モットモ類内ハ外務省ハソレニ關シテ全
然何モ知ラナカツタト述ベテホルノデアリマス。(b)

FF-56
類内ハ日華事變勃發直後關本縣ガ同問題ノ局地位
決マ交渉シ、ソレハ結局一九三七七年七月十一日關印
セラレタト証言シタノデアリマス。條件ハ(一)第二十
九軍ノ該事變ニ關スル陳情(二)中國軍隊ノ江蘇橋地
區ヨリノ撤退及(三)反日團體ノ取締(a)デアリマ
シタ。然ルニ同日近衛内閣ハ江蘇橋地區ニ軍隊ヲ増
派スル決定ヲ通過セシメ(b)據ツテ内地ニ於テ所獲
軍器ヲ功果シ又華北區迄軍ヲ強化スル爲メ東軍及ビ

HIROTA Summation-FF

FF-54	送還証書	ニ一ヤ	法廷記録	ニヤ四〇
FF-55	送還証書	ニ一ヤ	法廷記録	ニヤ四〇
FF-56	送還証書	ニ一ヤ	法廷記録	ニヤ四〇

0159 0008 1112

朝鮮軍ヨリ分遣隊ヲ派遣セシトスル軍ノ提案ニ同意ヲ與ヘタノデアリマス。(c) 右ニ就キ考ヘルニ原田ハ同決定ニ條件附テ賛成セルコト及ビソノ目的ハ専ラ日本人ノ保護ナリシコトヲ述ベコノ決定ヲ豫備的動員措置ナリト説明シ去ラシトスル類内ノ意圖ハ甚ダ信シ難キ事デアリマス。(d) 加フルニ人事課ノ「中國事變」ニ關スル報告ノ中ニハ、七月十一日ノ閣議ニ於テ華北ヘノ軍隊派遣ニ關スル必要ナ措置ヲ採リ又華北ニアル外交事務局ノ職員ヲ強化スルタメノ緊急措置ヲ採ル爲重要決定カナサレタト告イテアルノデアリマス。(e) 類内ハ文部事變ヲ解決セシトスル交渉ニ於ケル原田ノ役割ヲ知ツテ居ルト稱シ又原田ガ言ツタコト、行ツタコト全テヲ言シタノデアアルガ彼ハ中國ガ一九三七生七月十二日ニ日本側ノ要求ヲ受諾シタトイフ懸望ノ反ラカニ重要ナル電報ヲ送過スルコトガ出来ナカツタノデアリマス。(f) コノ電報ハ原田ニ依レバ、十二日午後受領セラレ中國ガ要求ヲ全面的ニ受諾セル旨ヲ報ジタモノデアリマシタ。原田ニ就

FF-56

f o d o	送達証	三二六〇	送達証	二六六八八
f o d o	送達証	三二六〇	送達証	二六六八八
f o d o	送達証	三二六〇	送達証	二六六八八
f o d o	送達証	三二六〇	送達証	二六六八八

0159 0008 1114

FJ-56

j i h e

法廷記録 三や六八〇
法廷記録 二二三六 一三四
法廷記録 二や三 一三四
法廷記録 二二三 一
法廷記録 二二三 一

レバソノ軍隊ハ、獨内ノ引用セルモノトハ相異シ
(一)ノ意見、(二)ノ將來ノ保証及ビ(三)ノ責任擔持ノ處
制デアリアマシタ。原田ハ軍報達員ガコレヲ「極メ
テ誠實ナ答ヘ」デアアルト評シタノヲ引用シテ后ル
方軍ハソレヲ日本ノ軍備ヲ停止セシメソトスル中
國ノ策略ナリト考ヘタノデアリマス。(g) 該事件ニ
關スル中國側ノ説ハソノ責任ヲ日本側ニアリ(m)
トシタノデアアルカラ何レノ意見ヲ正シイニギセヨ
是等條件ガ武力脅迫カラアツタレバコソ受諾セラレ
タノデアアルコトハ朕ヲカデアリマス。獨内ハ外務
省ハ何レノ意見ガ正シイカラ知ル爲ニ獨立ニ努力
シタ事ハナク確單ニ何ノ妥協モナク日本軍ノ説
明ヲ認容シタコトヲ記メタノデアリマス。(i) 日本
ノ目的ハ唯獨ヘニ日本ノ利益ヲ擧スルコトニア
ツタトイフ獨内ノ意見ニモカ、ハラス日本軍ハ事
ビ十四日ニ宛平市ヲ砲撃セシメ、(j) 獨内ノ下ニ一層大規模
ニ攻撃シタノデアリマス。(j)

HIROTA Summation-FF

FF-57

一九三七年七月二十日、更に國議が開カレ國內ノ三箇師團ヲ中國ニ派遣スル爲メ動員が行ハレルコトガ決定セラレタノデアリマス。同動員令ハ七月廿七日ニ發令セラレタノデアリマス。(a) 七月廿六日ニ廿四時間以内ニ北平地區ヨリ其ノ軍隊ヲ撤收スルコトヲ要求シタ日本側ノ最後通牒カ中國側ニ手交サレタノデアリマス。(b) 以田ハ一九三七年七月廿七日ノ演説、更に一九三七年九月二日ノ新聞ヘノ聲明デ中國ニ本事態ノ責任ガアルトシ、陸地ニ於ケル中國ノ兵力増強、竝ビニ日華間ノ現地解決放棄ヲ承諾シタ(c) ノデアルガ後ハ日本ノ迅速ナル動員行動ニ付テハ一言モ述べナカツタノデアリマス。

P-37

FF-57

e	法廷証書	三二六〇	法廷証書	二六六二〇一一
b			法廷証書	二三二六一三〇
c	法廷証書	二四〇三	法廷証書	二〇八七六
	法廷証書	二四〇三	法廷証書	二〇八七三

PF-58

a

、法廷證三六〇

法廷記録二六六九二

依レバ七月ニ中國ニ對スル事件處理ノ言ニ就テ、外相自海軍相ノ意見一致ヲ見一九三七年八月五日外相廣田ノ承認スル處トナツタノデアリマス。是等ノ條件ハ(一)白河ニ沿ツテ非武装地帯ヲ設置スルコト及非武装地帯ト指定サレタル地域ヨリ日華兩軍ヲ撤退スルコト(二)領土ヲ併合セザルコト、(三)賠償ヲ取ラザルコトヲ要求スルモノデアツタト堀内ハ言ツタノデアリマス。(a)然シ乍ラ其ノ様ナ書類ハ提出サレマセンデシタ。堀内自身此ノ書類ノ提出ガ出来ナカツタガ彼ガ言及シタモノト同一條件ガ「尋變處理案」ニ含レテキル様ニ思ハレルノデアリマス。ソシテ該案ハ一九三七年八月七日首相、外相及國海軍相廣田承認サレタモノデアリマス。是ハ堀内自身ノ言及シタ三條件ヲ含ンテキルガ然カモ其ハ遙カニ廣汎ノ範圍ニ亘ツテ居リ是等三條件ノ解釋ヲ著シク變更スルモノデアリマス。例ヘバ、尋變落着ガ主眼ナル目的デアルトハ言フモノ以下ノ事モ又通ベラレテ居ルノデアリマス。「吾々ハ大規模ニ且ツ長期ニ亘ツテ兵ヲ行侵スル決意ヲ爲サネバナラナイ。夫レ故ニ此ノ方面ニ必要ナル手段ヲ取ルコト

ニ依リ事態ノ如何ナル進展ニモ應ジ得ルヨウニ吾
 々ハ速カニ準備ヲナスベキデアールト。軍事行動
 ガ準備セラレ軍事目的ニ必要ナル資材ノ開發ガ遂
 行セラレルコトトナツテ后々事ハ明瞭ニ示サレテ
 キルノデアリマス。設置サル可キ管ノ非武裝地帯
 ノ非武裝化トハ支那領境デアツタ地域ヨリ支那軍ヲ
 撤退セシメ又其地域ハ中國保安隊ニ依ツテ取り締
 ラレルト云フ範圍ヲ出ザルモノデアリマシタ。而
 シテ該保安隊ノ勢力ハ日本側ニ依ツテ決定サレル
 モノデ、右ハ結局日本カ希望シタ事ヲ總ベテ其ノ
 希望通りニ具ヘタモノデアリマシタ。且ツ又其ノ
 中ニハ日本カ中國カラ得ヤウト常ニ企圖シテキタ
 約束即チ「中^(b)國ハ滿洲國ニ干渉シナイト云フ默
 約ヲ與ヘルト」言フ事モ含マレテキタノデアリマ
 ス。參謀本部ノ一課長デアリ又^(c)一九三七年三
 月ヨリ一九三八年二月マテ陸軍中央統帥部ニ在ッ
 テ戰略關係事項ニ携ツテキタ河邊ハ此ノ間ノ事狀
 ニ就イテ證言シタガ八月七日ノ此ノ會議^(d)ノ事ハ知
 ラナカツタト言明シタノデアリマス。

WP-58

b、 法廷證三七三
 c、 法廷證二五八二
 d、

法廷記録三七一
 法廷記録二一七
 法廷記録二一〇

PF-60

PF-59(四)

a、法廷証 四八六

a、法廷証 三二七五

b、法廷証 三二七五

法廷証 三二七五

法廷証 三二七五

法廷証 三二七五

法廷証 三二七五

法廷証 三二七五

法廷証 三二七五

法廷証 三二七五

PF-60 八月初旬、密使ノ船津ガ此ノ事件解決ニ助カセ
ンガ爲、廣田ノ命ニ依リテ派遣セラレタノデアリ
マシタ。彼ノ使命ハ秘密ニセララルベク此ノ旨廣田
ヨリ訓令ガアツタノデアリマス。(a) 船津ノ交渉ノ
差違トナルベキ要求ノ草案カ八月七日川越大使ニ
宛テ、訓電サレタノデアリマス。是等ノ條件ハ以
前ノ現地テノ條件ト異ツテ后リ、(一)河北省ノ大部
分ト關北ノ六省ヲ非武裝地帯ト宣言スル事、(二)滿
洲休戰條約廢棄、(三)冀察、竝ビニ京河北行政部ヲ
解散シ該地區ヲ南京政府ノ直接管理下ニ置ク事、
日華ヲ經濟協力ヲハカル事(b)ヲ要求シタモノ

PF-59 中國ニ於ケル日本ノ侵略ハ防共協定ニ違背スル
モノデアリ且ツ中國ヲ露西亞ノ掌中ニ追ヒ込ムモ
ノデアルトノ苦情ヲ言ツテ來タ一九三七年七月二
十八日阿ノ獨逸外務省ヨリ東京ノ獨逸大使館ニ宛
テタル電報ニテ明ラカニサレタル如ク、當時、獨
逸テサヘモ日本ノ中國ニ於ケル行動ニ關シテハ日
本ヲ非難シタノデアリマス。(a)

デアリマタ。更ニ是等交渉ノ形式ニ關スル訓電
 ガ陸海外務諸大臣ト協議ノ上八月七日ニ廣田ヨリ
 送ラレタノデアリマス。是等訓令ハ支那側ガ休戰
 ヲ甲出ル事ノ重要性ヲ強調シテ居タノデアリマス。
 (c) 然シ、岡本ハ交渉ガ行ハレテ居タ上海ニ於ケ
 ル八月九日ノ「大山事件」勃發ハ交渉ヲ不調ニオ
 トシ入レ遂ニ失敗ニ終ハラシメタノデアルト述ベ
 タノデアリマス。(d)

FF-61 一九三七年八月九日、上海事件即チ「大山事件」
 ガ起ツタノデアリマス。同事件ハ中國兵ガ一日本
 海軍將校ヲ殺害シタ事ニ起因スルモノデアルト堀
 内ハ云ツテキルガ、(a) 武田ノ反對尋問ガ暴露シタ
 ヤウニ該事件ニ關スル日本側ノ所見ガ如何ニ不台
 理デアるかト云フ事ハ個別尋問ニ依ツテ示サレル
 ノデアリマス。(b) 加之、一九三七年八月七日、首
 相、外務、陸海軍大臣ハ「陸上ニテ軍隊ヲ用ヒル主
 ナル地域ハ河北察哈爾及上海ナルコト」ヲ決定シ
 タノデアリマス。(c)

FF-61	FF-60
c	d
b	c
法廷証三七三五	法廷証三二七六
法廷証三二六〇	法廷証三二七四
法廷証三三〇五	法廷証三二九二
法廷証三二九六	法廷証三二九三
法廷証三二九七	法廷証三二九四
法廷証三二九五	法廷証三二九六
法廷証三二九七	法廷証三二九八
法廷証三二九九	法廷証三三〇〇
法廷証三三〇一	法廷証三三〇二
法廷証三三〇三	法廷証三三〇四
法廷証三三〇五	法廷証三三〇六
法廷証三三〇七	法廷証三三〇八
法廷証三三〇九	法廷証三三一〇
法廷証三三一〇	法廷証三三一〇

Food 33

聞
聞
聞
聞

此
此
此

三三三

A

聯聯聯聯

前前前前

אֵלֶּיךָ יְיָ אֱלֹהֵינוּ וְלֹא לְאִישׁ אֶחָד מִבְּנֵי אָדָם.

〃 〃 〃 〃
 〃 〃 〃 〃
 〃 〃 〃 〃
 〃 〃 〃 〃

九九〇〇〇〇

0
K
カ
ク
K

—]

*

PURL: <http://www.legal-tools.org/doc/fb8e0c/>

HIROTA Summation-FF

隻ノ戦艦ヲ集結シ同地ノ軍隊ヲ数千増加シタノデ
アリマス。(h)ソシテ、廣田自身、上海ノ日本海軍
陸戦隊ノ増強並ビニ同地ニ戦艦ヲ派遣スル事ヲ承
認シタノデアリマス。(i)

FF-61
h、法廷証 丑へ 法廷証 三三〇三
i、 法廷証 二九七六四

ソノテ、蒲洲、北平、莫ノ他ノ地ニ有田ガ派遣セシレタノデアリマス。彼ハ又上海デハ中國例ト非公式會議ヲスルコトニナツテキダノデアリマスガ、此ノ會議ハ彼ノ上海訪問ニモ拘ハラズ情勢好轉セザリシ事實ノ故ニ具體化シナカツタノデアリマス。(2)

東京ニアル當局主腦部テハ動員政策ヲ採ラレテ

居タノデアリマス。例ヲモグレバ、一九三七年九月廿四日、内閣ハ國信師団ノ預員ト他ノ四箇師団ヲ待期ノ狀ニ置クコトヲ決定シタノデアリマス。(c) 堀内ハ何カ右ノ如キ事項ガ決定セラレタト謂フコトヲ認メタノデアリマス。(b)

一九三七年七月廿二日ノ「ダール」ノ廣田ニ對スル調停申出ヲ廣田ハ未ダ施ホ現地解決ヲ期待シテチルト答ヘテ拒絶シタノデアリマス。(c)

一九三七年八月六日、美國政府ハ再度合衆國ニ

a、法廷證	三二六〇	法廷證錄	二六六九四
b、法廷證	三七八二A	法廷證錄	二六六八九
a、法廷證	三二六〇	法廷證錄	二六六九二

對シ、日本及中國ノ兩國ニ英米ノ調停ノ申出ヲ
爲スコトヲ提案シ且ツ、斯クノ如キ申出ニ對シ
多分日本が見セルデアラウ反應ニ付テ「ドツド」
及ビ「グルー」ノ意見ヲ求メテ來タノデアリマ
ス。^(b) 依ツテ一九三七年八月十日、「グルー」
ハ外務大臣廣田ニ對シ現情勢ニ於テ彼ニ援助セ
ン事ヲ申出デ、右ハ既述ナル調停ノ申出デアル
ト提案スル極限ヲ有スルモノデアルト述べタノ
デアリマス。彼ハ交渉ヲ行フ爲日華兩國ノ全權
委員ノ會議開催ヲ斡旋シヤウト提議シタノデア
リマス。^(c) 原田ニ依ルト九月二十六日頃廣田ガ
英國大使ニ表示シタ日本ノ要求ニ就イテノ廣田
個人ノ考ヘト云フノハ、「一天津及ビ北平ノ稍南
方ニ一線ヲ劃シテ非武裝地帯ヲ設置シ、該地ニ
中國及ビ日本ノ軍隊ヲ駐屯セシムルコト、^(二)滿
洲國ヲ承認スル事、^(三)併日運動ノ中止、^(四)共產
主義ニ對スル防衛、^(五)華北ニ於ケル外交的權益
均等。デアリマシタ。^(d) 如内ハコレガ要求ノ大

FF-64	b、法廷證	三二七九	法廷記録	二六九三四
	c、法廷證	九三〇	法廷記録	九四三三
	d、法廷證	三七八三 A	法廷記録	三七六九二

要テアルト云フ事ニハ大猛威感シタノデアルガ、
廣田ガ滿洲國ヲ承認サセヤウト永年ニ直ツテ中
國以府ヲ説キツケテキタコトハ認メツツモ、
滿洲國ヲ承認サセル爲日本ガ軍事の勝利ヲ利用シ
タト云フ事ハ承認シナカツタノデアリマス。(f)
然シ埒内ハ交渉取ハ八月計ニノ基礎條件ガ失敗
シタ場合ニハ第三國ノ仲介ヲ要請スルトノ決議
ヲ首相、外相及ビ海相ガ爲シタト述ベクノデ
ハアルガ日本ハ米ノ國付ノ同ヲ追求スル何
等ノ手段ヲモ辭シナカツタノデアリマス。(f)

FT-64
。、
I、法廷ニニキ0 按記ニニキカニ
按記ニニキカニ 一40

FF-65

一九三七年十月一日「支那事態處理要綱」が作
サレ首相、陸相、海相、外相（廣田）ニヨリ署名
サレタノデアリマス。外交政策ノ目的ハ中國ヲ日本
ノ希望スル地位ニオキ中國ヲシテ反日親共ノ傾向ヲ
拋棄セシムルニアルト記サレテアリマス。日本ハ全
國的ナ動員ニヨリ軍事的ニ事態ノ如何ナル變化ニモ
應ズベク準備スル事ニナツタノデアリマス。北支、
中支、南支ノ各領域ノ行政ニ關スル計畫ガ作成サレ
事態處理ノ條件ハ決定サレタノデアリマス。休戦ト
同時或ハソノ後ニ日華關係ノ調整ニ關スル交渉ガ行
ヘルベク該交渉ハ中國ノ滿洲國承認義務委員會及東
部河北政權ノ廢止、日華間ノ防共協定ノ締結並ビニ
排日主義ノ抑壓ノ線ニ沿ヒテ行ヘル、事ニナツタノ
デアリマス。(a)

FF-65

a、法廷證 三三六三 法廷記 二九七七一

PF-66

a, b, c,

法廷証

三〇八四 A

〃

法廷証

三〇八四一

三〇八四三

三〇八四五

十月二十七日ニ廣田ハ再び「クレイギ一」ト會見
シタノデアリマス。「クレイギ一」ハ彼等ノ意見
ヲ援助スベク彼ノ出來ル限リヲ盡サシコトヲ申出デ
之ニ對シ廣田ハ異國ノ援助ヲ得ルコトハ彼ノ望ム所
デアルト答ヘタノデアリマス。此ノ「サグリ」ニ基
イテ廣田ハ可能極アル和平條件ヲ「クレイギ一」ト
建議シタノデアリマス。^(a) 堀内ハ當時日本ニハ強力
ナ反英運動ガアツタコト及ビ廣田ガ一九三七年十一
月一日ニ、英國ハ此ノ争ノ最も適當ナ仲裁者デア
ルト云フ見地カラ斯カル運動ハ日本ニ取ツテ厄介ナ固
シタコトデアルト述ベタト云フコトヲ認メタノデア
リマス。^(b) 然シ彼ハ、廣田ガ日本ハ結局ハ英國ト戦
ハネバナラヌカモシレヌガ其ノ當時ハマダ日英戦争
ニハ時期尙早デアルト云フ事ヲ述ベタ會話ノ終リヲ
思ヒ出スコトガ出來ナカツタノデアリマス。^(c)

廣田ハ英國及ビハ米國ガ此ノ紛争ノ仲裁ヲスル事ヲ
非常ニ熱心ニ望ムテ居ルト思ハレテ居タガソレニモ
拘ハラズ、英米仲裁ノ申出ハ一蹴サレテシマツタノ
デアリマス。堀内ノ言ニ依レバ、之ハ軍ノ反對ニ依

P-18
PF-66

ルモノデ最後ニ獨逸ガ仲裁者トシテ選バレタノハ廣田ノ希望ニ反スルモノデアリマシタ。(d)

見ラレル如ク、日本ハ實際ニハ英國ノ仲介ヲ望ンデハ居ナカツタノデアリマス。支那事變ニ關スル政策ヲ批判セル一九三八年八月二十五日二十九日ノ佐藤ノ演説ハ英國ヲ蔭介石ノ支持者デアルト非難シ中國ニ對スル英國ノ經濟援助除去ヲ要求シタノデアリマシタ。(a) 又コノ仲介問題ニツキ廣田ガ「クレイギー」ト會談シテキル丁度其ノ頃日本ハ既ニ一九三七七年十月二十六日或ヒハ其ノ前後ニ獨逸ニ對シ紛争ノ仲介ヲシテ呉レルコトヲ要請シテキタノデアリマス。(b)

一九三七年十一月五日ニ至リ原田ハ廣田ガ極ク最近本問題ニ關スル「クレイギー」トノ會談ニ於テ後者ニ獨逸或ヒハ伊太利ガ仲介者ノ勞ヲ取ルコトハ全然何ノ役ニモ立たスト確言シタト記録シテキルノデアリマス。(c)

堀内ハ日本ガ獨逸共同仲介ヲ囑進シテキタコトヲ説明セント試ミタ。(d) ノデハアル

d、	法廷證	三二六〇	法廷記録	二九七〇〇
a、	法廷證	二二三五	法廷記録	一六〇六六
b、			"	二九七九六
c、	法廷證	二七八五 A	"	二九七九六
d、			"	二九七九六

FF-68

ガ原田ハ其ノヤウナ提議ニ就イテハ何モ言ツテ居ナ
イノデアリマス。廣田ガ英國大使ニ英國ガ最上ノ仲
介者デアルトノ印象ヲ與ヘンコトラ望ンデ居タ事ハ
明白デアリマスガシカシ彼ハ實際ニハ英國ノ仲介ヲ
用ヒル意圖ハナク且ツ彼ガ「クレイギー」ト表面ヲ
伴ツテ會談シテキタ時既に「ドイツ」ノ仲介ニ同意
シテキタノデアリマス。一九三七年十一月二日ニ、
獨逸ノ仲介ニ依リテ或ル和平條件ガ日本カラ中國國
民政府ニ提議セラレタノデアリマス。(e)

一九三七年十月二十二日ノ陸軍及外務省ノ決定
ニハ軍事目的ガ事實上得ラレタ時、コノ抑壓ノ下ニ
南京政府ハ余儀ナク和ヲ乞フデアラウト述ベテアリ
マシタ。更ニ又、英米ガ中國ヲ交渉ニ引込ム事ハ英
米ニトツテモ都合ノ好イ手段デアリ尙一方、獨逸ガ
中國側要求ニ依リテ仲介ノ勢ヲ取ルコトハ更ニ好都
合ノコトダト述ベテキルノデアリマス。弱味ノ印象
ヲ與ヘヌタメ調停ニ關スルカケ引キガ一般ニヒロマ
ラヌ様注意ガ拂ハレル筈デアツタノデアリマス。(a)

FF-68 FF-67

e、 法廷證 四八六―B 法廷記錄 五九八三

a、 法廷證 三二六八 法廷記錄 三七二四三

FF-68

c、 b、

法廷証

三二八四

法廷記録 二九七八六―九三
法廷記録 二九八九七

辯護側証人堀内ハコノ會合ニ關シテ何モ知ラナカツ
 タト申立テ、日本ガ中國ニ於テ其ノ目的ヲ達シタ後
 ニ和平工作ガ爲サレル筈デアツタトイフコトヲ否定
 シタノデアリマス。彼ハ該地ニ於ケル軍事工作ハ偏
 ヘニ日本ノ權益保護ニ限ラレテキタト斯ル保護ガ
 中國ノ大部分ヲ占領スル事ヲ必要トシタ様ナ事實ニ
 モ拘ラズ、強ク主張シタノデアリマス。(b) 一九三
 七年十一月十六日、獨逸ガ既ニ干與シ始メテカラ、
 廣田ハ「グループ」トノ會談ニ於テ、合衆國ハ蔣介石
 ヲ和平交渉ヲ行フヤウニ説伏スルコトニヨツテ援助
 出來ルト述べ、且ツ蔣和ハ「道理ニ道フモノデアリ
 「日本ハ中國ノ領土ヲ一尺タリトモ保持シナイ」ト
 述べタノデアリマス。(c)

PF-69

ソ1デ十一月二十八日、二十九日及び十二月二日
ニ猶進ハ更ニ中國政府ニ日本ノ意圖ヲ通達シ日本ガ
最近カチ得タ軍事的勝利ニモ拘ラス十一月初旬ニ日
本政府ヨリ提示サレタ條件ハ未タ同一ノモノデア(a)日
ルト述べタノデアリマス。一九三七年十二月七日廣
田ガ近頃ニ彼ハ中國側ニ、若シ戦況ガ變化スレバ條
件モ亦變化スルデアラウト通告シタト語ツテ居タ事
實カラ見テ廣田ハ中國ニ對シ虛偽ノ聲明ヲ發セルノ
ミナラス自分ノ關係ニ對シテモ、(b)條リノ聲明ヲ
爲ス事ガ彼ノ利益ニナル時ハソウシタトイフコトガ
推測サレルノデアリマス。期內ハ二十日ニ新シイ條
件ヲ協議スルタメニ連絡會議ガ開催サレ(主)票ノ四項
目ガ決議サレタト述べタノデアリマス。(c)本戸ハ
彼ノ日記(d)並ビニ反對諷刺(9)ニ於テ彼ハ實際ノ
條件ガ決定サレタ一九三七年十二月二十一日ノ閣議
ニ列席シタト述べ、又外相廣田ニソノ條件取リ扱ヒ
ニ關シ金條ガ與ヘラレタト述べタノデアリマス。之
等ノ條件トハ(一)中國側ハ以共政策ニ協力スルコト

PF-69

- a 法廷証 四八六 B 法廷証 四八六 B
- b 法廷証 三七八 A 法廷証 三七八 A
- c 法廷証 三六〇 法廷証 三六〇
- d 法廷証 三九八 法廷証 三九八
- e 法廷証 三六〇 法廷証 三六〇

FF-70

a 法廷証 四八六一B

法廷証 五九八四

FF-69

f 法廷証 三二六〇
g 法廷証 三七八一A法廷証 二九七〇ニ
法廷証 三七七〇九

FF-70

十二月廿日及廿七日、日本ハ獨逸ノ仲介ヲ以テ「基本條件」ナルモノ即チ、上述ノ條件ヲ、狀況ノ變化ニヨリ新條件ガ日本ニヨリ提出サレタトノ説明付キニテ發シタノデシタ。(a)

(二) 非武装地帯ヲ設置スルコト (三) 中國政府カラ必要ナル賠償アルベキコト (四) 日華間ニ緊密ナ經濟關係ガ結バルベキコトデアリマシタ。之等ハ自然八月ノ條件ヨリモ嚴詰ナモノデアル (f) ト堀内ハ述べタノデアリマス。原田ニ依レバ出來ルダケ早く戦争ヲ停止スルコトヲ欲シテキタ參謀本部ノ願ニ依リ内閣ニ提議サレタ最初ノ條件ハ具體的性質ノモノデアツタガ木戸ノ主張ニヨリ内閣ハソレヲ上述ノ四個條ノ總家的條件ニ變ヘタノデアリマシタ。原田ハ新中國政府領土ニ山東ヲ包含スルコトヲ主張シタノデアリマシタ。(g)

WE-72

WE-71

a

a

法廷証

法廷証

四八六

一D

法廷証

五九四

五九四

法廷証

三六八

七五

WE-72

WE-71

一九三七年十二月二十四日、閣議ハ「中日暴變方
策要」ヲ決定シマシタ。彼等カ、時局拾敗ノ爲、
國民政府ト交渉ヲ開始シタバカリデアルニ、同決
定中ニハ「我々ハ必ラスシモ、南京政府トノ交渉安
結ヲ期待スルモノデアナイガ、別個ニ時局拾敗ニ旁
ムル一方、我々ハ暴變行動ノ進捗ニツレ、南京政府
ノ支那反抗ニ對抗スルタメ、華北及び華中地域ニ於
テ、(a)左記政策ニヨル措置ヲトル」ト述べラレテキマ
ス。

一九三八年一月五日、「デイクルクセン」大使ハ、
獨逸外務省ニ、日本ハ、新暴變行動計畫中ノ故ヲ以
テ、旋菜ニ歸スル中國僑ヨリ還カナル回答ヲ切望シ
テキルト報告シテキマス。(a)

HIROTA Summation-PP

慶PP-73

一九三八年一月十日「デイルクセン」大使ハ、夏
獨逸外務大臣ニ打電シ、廣田ハ其モ進カナル中國
ノ同督ヲ主張シ、軍部ハ迅速且明快ナル回答ヲ求
メシテキタ旨ヲ述べタルデアリマス。(a)

イPP-74

一九三八年一月十日附ノ電報ノ中ニ「フボン」ノ
ラートハ、東郷ガ、日本ハ中國トノ和平ヲ希望
スルモノナルモ、日本ハ最後迄戦争ヲ續行スル、而
シテ戦斗ガ長引ケバ長引ク經濟條件ハ益々困難トナ
ルデアラウト説明シタコトヲ記録シテ居ルデアリ
マス。(a)

山PP-75

一九三八年一月十日、御前會議ノ準備トシテ、中
國事變ノ解決ヲ議スル爲、閣員ガ召集セラレマシタ
コノ閣議ニ於テ、參謀本部ハソノ和平條件ヲ侵略的
ニ迫ルモノト考ヘ、又斯クテハ將來ノ外交關係ヲ
害スル恐レアリト認ジ、ソコデ餘リニモ侵略的トナ
ル傾キアル國內傾向ノ調整ヲ策定スルタメ陛下御臨
席ノ會議ヲ主張シタト云フコトガ明カニサレタノデ
アリマス。外務省及ビ海軍ハコノ意見ヲ賞揚シ、如

PP-74 PP-73

a、法廷 一八一P 法廷記録 五九三三

a、法廷 四八一D 法廷記録 五九三一

FP-76 FP-75

a、法廷口

三六四

法廷記録 二六八三

a、法廷口

三六四

法廷記録 二六八三

上ノ精神ヲ生カス爲、陛下御臨席下ニ右提議ノ會議
ヲ開催スルコトハ良イ事デアラウト云フコトニ一致
シタノデアリマス。(a)
然ルニ一九三八年一月十一日、廣田ハ議中口口東京
決意ノ目因ヲ以テ、御前會議ニ出席シテキマス。右
會議ニ於テ、日本ノ主長取集ハ日清華「プロク」
ノ確立ニ在リト述ベラレテキマス。中口國民政府ト
ノ交渉ハ、創ヘカ、ル場合ニ適用シ得ルモノトシテ
提議セラレタル條件ガ苛酷ニ迫ラシメ給フ希望ハ
畢竟不可能ナリトモ、若シ中口ニシテ、誠實ニ和睦
ヲ求ムルニ於テハ、阻マレナカツタ筈ナノデシタ。
日本ハ之等提議條件中、滿洲口ノ承認及ビ排日、排
滿傾向ノ自勵ヲ要求セシメテラス、華北ニ日清華
共榮實現ノ爲ノ組織ノ設置及ビ内蒙古ニ反共自治政
府ノ設立並ニ天然資源ノ開發及ビ中口ヨリ成立スベ
キ賠償ニ關スル協定ノ締結ヲ要求セシタノデアリマ

HIROTA Summation-PP

一九三八年一月十一日附「トウラウトマシ」大使
發電ニ見ラルル通り、獨逸人デスラ交渉ニ於ケル日
本ノ真意ヲ疑ツテ居タノデシタ。本電中、彼ハ一日
本側ハ我々ヲ通シテ送ツタ彼等ノ誤解ヲ又モ變更シ
テ居ル様ニ思ハレル。。。。。。。如新變更サレ
タ聲明ノ傳達ハ、當地デハ、日本側ガ我々ニシカケ
テキル「卓劣ナル奸策」ト看做サレル。ト云ツテ
居マス。(a) 一九三八年一月十三日、トウラウトマ
シハ獨逸外務大臣ニ中山政府ハ日本ニ對シ、變更
サレタル條件ハ範圍ガ長汎ニ過キルト記セタル上、
新提案ノ性質内容ノ通知カラ長京スル旨回答セリト
打電シタノデアリマス。(b)

PP-77

a、法廷ニ出ハス I D
b、" 出ハス I B

法廷記録
"

出ハス
出ハス

堀之内ハ、ロム政府ハ四基本原則ト共ニ詳細ナル説明ヲ提出シテキタノデアルカラ之ヲ故意ニ解ルクセシムルヲ延延セシムル(ル)ヲ略デアルト考ヘテ憤慨シタト述ベテキマス。(a)堀之内ハ、コレヲノ賠償金總額ヲ含ム許諾ハ(ル)大佐ヲ通ジテ提出サレタト述ベテ居リマス。(b)一九三八年一月十四日、「デイルクセシムルハ(ル)遠外(ル)大臣ニ對シ、長田ガ「無意味ナ中國ノ宣言」ニ大イニ憤慨シテキルト語ツタ旨打電セルニモ拘ラス、(ル)逸大佐ハ彼ガ長田ニ、中國政府ハ只、四基本條件ノミヲ知り、ソレ以外ノ外務省ヨリ中國政府ヘノ通告ハ長田ノ希望ニヨリ拒メテ漠然タル形ヲ造ラレタト聯合シタト報告シテキルノデアリマス。(c)加説(ル)人河邊モ又十二月二十一日ノ閣議ニテ一致セル實際ノ條件ハ抽象的且磁メテ曖昧ナ表現ニナツテキルガ、參謀本部ハ以前ヨリ、モソト明瞭ナ條件ヲ唱道シ、中

a. 法廷証 三六〇 法廷記録 三六〇三
b 法廷記録 三六八一〇
c. 法廷証 四八六 法廷記録 五九八六

HIROTA Summation-FF

FF-79

國トノ和解ヲ希望シテキタト證言シテキマス。(d)
シカモ證人堀之内ハ、彼ノ證言ガ結果的ニ此ノ和
平提案ニ專ラナリシニモカ、ハラズ、コレヲノ交
渉ガ閣議ニ提出サレタルヤヲ思出シ得ヌノミナラ
ズ、參謀本部ガ事變ノ速カナル解決ヲ唱道セルコ
トモ思出シ得ナカツタノデアリマス。(e) 更ニ、
コノ明ラカナル偽リハ、一月十五日ノ原田ノ記録
ニヨリ明ラカニサレテキマス。同記録ニ於テ彼ハ
中國側ハ、具體的提案ヲ承知シテ居リ虚勢ヲ張ツ
テラル、ソレ故、長期戦ノ選擇案ニ着手スルノ外
ハナイト云フ外相(長田)ノ言ヲ擧ゲテキマス。(f)

河邊ハ、中國政府ガ一月十五日ニ詳細ナル和
平條件ヲ要請シ、中國ハ同意セシカ爲メ斯クスル
モノデハナイト云フコトヲ日本政府ニ保證シタコ
トニ付テハ何も承知シテギナイ旨ヲ陳述シテキマ
ス。(a) 「トラウトマン」ハ一九三八年一月十五

P-59
Filing

FF-79
a

Filing
FF-78
f, e, d

法廷記録 二三〇四六、一五〇

法廷記録 二六八〇三

法廷記録 二七七一八

法廷記録 二四〇四〇

日ニ、其ノ管取テ、孔ノKUNG 管取ノガ和平ヲ希
望スル中國ノ誠實ナル希望ト基礎條件ノ性質並ニ
内容ヲ知リ度キ切ナル希望トヲ張田外相ニ送ッル
公文ノ發送方ヲ要請セリト述ベテ居リマス。(b)

尙許細ナル説明ニ對スル中國ノ總論ニ應ゼント
スル所ナク、日本ノ閣議ハ一月十五日、此ノ回答
ヲ討論スル爲會合シ、次イテ中國ノ回答ハ滿意ヲ
缺キタルモノナリトノ振振ニヨリ「國民政府ヲ相
手トセズ」トイフ決定ガナサレタノデアリマス(a)
此ノ聲明ガ實際一ヶ月以上モ前ヨリ考ヘラレテキ
タトイフコトハ一九三七年十二月十一日ノ原田日
記ヨリシテ之ヲ規と爲マス。同日記中ニ近衛ハ「南
京ガ陷落スレバ村介石政府ハ崩壊ニ傾シ、近衛ハ
親政府ノ承認ヲ取消ス(注)聲明ヲ發表スル積リデアル」
ト述ベテ平マス。(b) 張田ハ一月十七日原田ニ電
斷シ「中國政府カ(日本政府ニヨリ決定サレタ)

P-60

FF-80

HIROTA Summation-FF
FF-30
FF-80
FF-79

b、法廷証 三七一六 法廷記録 三七一六四
a、法廷証 三二六〇 法廷記録 二六七〇四
b、法廷証 三七八七 法廷記録 三七八〇二

0159 00008 1139

HIROTA Summation-PF

提案ヲ受諾シテカッタノデ陛下御臨席ノ下ニ開カ
レタ會議ハ選擇案着手ノ決定ニ達シタト述べテハ
キマスガ彼ハ前日ノ或會議ニ於テ、彼ハ御前會議
決定ノ聲明中ニハナイ、アノ決定^(c)ヲ自ラ唱へ
タノデアリマス。コノ決定ノ聲明ハ一九三八年一
月十六日ニ發セラレ、^(d)「帝國政府ハ尙今國民政府
ニ意ヲ用キズ又吾ガ帝國トノ提携ニ値スル新中
政府ノ樹立及ビ發展ヲ期スル。」ノ原文不詳ノ
ト宣言シタノデアリマス。堀之内ハ右聲明ハ國民
黨政府ト今後更ニ交渉スル餘地ヲ無ス様ニ述べラ
レテキルト主張シタノデアリマスガ、^(e)此ヲ其
ノ原文ヨリ推理スルコトハ出來マセン、又木戸ハ
ソレヲ確乎タル^(f)収束トシテ又創始的ナ聲明ナリト
云ツテキマス。

FF-81

一九三八年一月十六日、日本國外務大臣ハ、獨
逸大使ニ、日華間交渉決裂ニ關スル日古御聲明ヲ

FF-80

P-61

c、法廷証	二七八九一A	法廷記録	二七七一一八
d、法廷証	二六八	法廷記録	二五六三
e、法廷証	二二六〇	法廷記録	二九七〇五
f、法廷証	二二六〇	法廷記録	一八二二三

- a. 法廷証 四八六一B 法廷記録 五九七
b. 法廷証 四八六一G 法廷記録 五九七
c. 法廷証 三七三七一A 法廷記録 三七三八五

一九三八年一月十七日ノ通電大至宛ノ電報中デ
「ドイツルクセシ」ハ交渉決裂ニ際スル日本ノ行動
ヲ非トシ、日本ハ斯カル行動ニ對シ世界ニ(b)責任ヲ
負フベキモノデアルトシタノデアリマス。(b)原
田自身、一九三八年二月十六日、第七十三議會演
説中ニ石交渉ヲ同般シ、日云ハ加介石ト妥協セシ
トシタコトハナク、加介石ガ日本ノ條件ヲ受理ス
ル場合ニノミ直接交渉ニ入ルモノデアリ、又日本
ハ中國ノ態度ヲ變ヘサセ(。)(c)ル爲中田屬意ノ政策ヲ取
ツタト述ベテ居リマス。(a)

HIROTA Summation-FF

FF-82

廣田ハ、一九三八年一月二十二日ノ演説ニ於
テ、交渉失敗ヲ、中國側ニ其ノ責任ヲ負ハセ且
ツ日本ハ華北ヲ中國ノ他ノ部分ヨリ分離セシメ
ントスル意向ナキコトヲ主張シテ、之ヲ公然言
ヒ紛ラサントシタノデアリマス。^(a)ソレニモ拘
ハラズ、僅カーケ月以前、一九三七年十二月廿
四日ニハ、廣田ハ、交渉不調ノ場合華北中央地
域ニトル爲メ決定セル政策ノ一當事者デアツタノ
デアリマス。此ノ中ニハ、華北ニ於ケルハ勿論
華中華南ニ於テモ、一以ノ信賴ヲ勝ち得ル新華
北政策ヲ獨立スルコトガ所望ナル旨述べテキル
ノデアリマス。新華北區域ニ包含サルベキ地域
ハ主トシテ河北、山東、山西及ヒ察哈爾省ノ一
部デアリマシタ。經濟發展ニ關シテハ、其ノ目
的トスル所ハ日滿經濟ノ統合關係ノ強化及ビ以
後ノ日滿國防ニ必要ナル物資ノ生産増加ニアリ
マシタ。^(b)一九三七年十二月南京陷落後、中國
ニ新以て獨立ノ通説が行ハレマシタ。十二月五

FF-82

a、法廷證 九七三 G
b、法廷證 三二六三

法廷証 九三三一
法廷証 二九八一三

FF-83

日ニハ、上海ニ「シヤンハイリタタオ」市政府ガ組織サレ、南京治安維持會及ヒ杭州治安維持會ガ一九三八年一月一日ニ設立セラレタ。復興政府自體モ正式ニ一九三八年三月廿八日ニ獨立セラレルコトニナツテ居リ、ソノ結果トシテ、以多ノ地方收復モ其ノ支配下ニ創設サレシトシテキタノデアリマス。斯クテ江蘇省、浙江省、及ビ安徽省ニ於ケル地方以信並ニ南京ニ於ケル市公署カ、ソレゾレ、一九三八年五月二十三日、六月二十日、七月廿三日及ビ四月廿四日ニ實現サレタノデアリマス。上海ノ市公署ハ一九三八年四月廿八日ニ設立セラレ、何レモ皆コノ明ラカニ意圖ナキ以田ノ宣言後僅カ兩三ヶ月ニシテ設立サレタノデアリマス。(c)

一九三八年一月二十七日、軍中行收復線ガ決定サレ、其ノ要點ハ、日本ニ依存スル高陵ノ親日政權ノ獨立デアリマス。

FF-83

FF-82

。、法廷證 四六三 法廷記録 五二九六
 2、法廷證 四六三 法廷記録 五三一一一至

FF-84

日本ハ、^(a) 蔭 介石 トノ 平和 的ニ 屏 決 スルト 言フ
 考ヲ 抛 棄 シマシタノデ、今ヤ 長期 戦ノ 準備ニ 乘
 出シタノデアリマス。ソレハ 一九三八年 一月 二
 十八日ノ 東京 郊ノ「フオシ・ノイラース」トノ 合
 見ニ 依ツテ 證 明サレテ 居ル 廻リデアリマス。右
 合 見ニ 於テ、東京 郊ハ、日本 政府ニ 代リ、獨 逸ト
 ノ 貿易 増進 及ビ 日本ガ 獨 逸ニ 對シ 長期「クレデ
 ット」ヲ 希 望シテ キルコト等ニ 關シ 擧 言シタノ
 デアリマス。^(a) 又、一九三八年 一月 二十一日 廣
 田ニ 與ヘタ 覺 書ノ 中ニ、近 衛ハ 總 動員ハ 國防ノ
 必要ニ 順 應シテ 完 成スレ、又 一般 準備ニ 對スル
 計畫ガ ナサレルト 述ベテ キマス。尙、中國ノ 長
 期 抵抗ニ 應ジテ 凡ユル 措 置ガ 講ゼラレルノ ミナ
 ラズ 又 其上ニ 急 速ナル 海外 進 出ガ 計 算サレ、國
 民ノ 完全 軍 備ガ 確 實ニサレルコトニ ナツテ キル
 ト 述ベテ キマス。^(b)

FF-85

國民 黨 政府ノ 迅速ナル 分 發ヲ 指 來セントスル
 日本ノ 企 圖ハ、軍 事 行動ニ 專 念セルノ ミナラズ、

FF-84

a、法廷 證 四八六 I 法廷 証 三〇七
 b、法廷 證 三二七〇 法廷 証 三二四八

PP-85

2、法廷證 三二七一A 法廷記録 三二五五

宣傳ノ如キ一層陰謀ナル方法ノ使用ヲモ包含シ
タノデアリヤム。一九三八年二月八日、廣田ハ
香港、上海駐在ノ外交官ニ打電シ、外務省ハ敵
軍部内ニ分裂ヲ惹起セシメ民心ヲ擡反セシメシ
ガ爲、諸報ノ宣傳ビラ及ビパシフレットヲ作製
シツツアルコトヲ報ジシノデアリヤム。次デ彼
ハ特定地域ニ應ジテ探ラルベキ方策ヲ指示シタ
ノデアリヤム。(a)

七、適合衆上及天不利以上諸條並ニ後略條等通稱

PF-86

以田ノ外務大臣任命直後、彼ハ一九三三年九月十八日タル一六以ニ、彼ノ東京ノ通稱ハ日本通稱ノ親善關係促進テアルト語ツタメテアリマス。(a)一九三四年一月二十三日再ビ、以田ハ、第六十五議會ニ於テ演説ヲナシ、ソノ中テ彼ハ、親善關係ニ起セル過去ノ諸文以ニモ拘ラズ、合衆國日本間ノ親善ニ對スル希望ヲ表明シテキマス。(b)

PF-87

之等ノ表明ハ爾後ノ實際東京ニヨリ反映サレルモノデス。以ハ、一九三四年二月二十一日以田ハ再ビ「ヘル」ニ、日本ハ甲山ニ於テ何等利益ヲ求ムルモノニ非ストト言シテキマス。(a)一九三四年四月十七日日本外務省ハ、甲山ヲシテ第三山ノ利益源泉ニ、日本ノ強山スル所ニ從ハシメントスル日本ノ目的ヲ表明シカニセル聲明ヲ發シタメテアリマス。(b) 證人桑島ハ、右聲明ガ日本ノ東京ノ東京テアツタコトヲ否定シマシタ。彼ハ、

PF-86

a、

法律書

三三三六

法律記事

二六二四八

b、

〃

三三三七

〃

二六二五八

PF-87

a、

法律書

一七四

法律記事

一八〇六

b、

〃

三三三六

〃

二六二六八

〃

〃

三三三五

法律記事

一〇二二〇

〃

二六二六八

公ニシタコトテアツタコトガハツキリスル様ニ思
ハレマス。此ノ聲明ニ基スル各定^(f)ヤ遺他ノ意ハ正
ニ外務省ニヨリ發セラレマシタ^(f)。其田ハ、哥
慶合衆國ニ發シ、日本ハ他國トノ通^(g)商ニ於テ支障
ヲ生ゼシメントスルモノテモナク、^(g)日本ノ先
領ノ目的ハ東洋ノ永主權ヲモナイコト、又日本ハ
コノ點ニ基シ如何ナル條約ヲモ施業又ハ廢止スル
意圖ヲ有^(h)スルモノニ非ルコトヲ言シタノデアリ
マス。

PPF-07

f、	延建證	三二四五	延建證書	三六三八四
"		三二四六	"	三六三八七
g、	延建證	九三六	延建證書	九三六三
h、	延建證	九三七	"	九三九五

ハ、前記ニ於ケル石油ノ占ニ就キ、廣田ノ注意ヲ
喚起シ、是等ノ獨占計畫ハ日本ノ指導下ニ限定ス
レテ居リ、從ツテ合衆國ハコノ問題ニ關シ日本ニ

(a)交渉スルモノテアルコトヲ主張シタテアリス、
廣田ハ、一九三四年十一月三十日ノ回答中、

前記ニ於ケル石油工業ノ管理ハ日本ノ知スル處
ニテ、サレバ皆ヲ通ベタテアリス、(b)コノ點

關ハ、以田方ニ據シタ先ノ三月二十日ノ自議決定
ヨリシテ分曉スル通り、眞實ヲナカツタテアリス
マス。(c)同決定ハ前記ニ於ケル石油工業、餘ケラモ

石油工業並ニ「直接、間接ニ市口ノ特別保護、監
督下ニアル」特殊地位ノ下ニアル其ノ他ノ二三工
業ノ指導方針ヲ定ムルモノテアリス。斯クノ如
ク、日本ハコノ獨占政策ノ爲何等ノ道程ヲモ探ラ
ナカツタテアリス。ソコナ、一九三五年四月
十六日、グルー大長官ハ口頭ニ以テ、右ニ關シ日本
ノ演説ニ就キ注意ヲ以テシ、右行動ハ合

P-71

HR-89 HP-88

a, 被疑者

証人

二二日也

証人

二二日也

HIROTA Summation-FF

HP-89

衆國ノ兵隊一懸影(影)ヲ及ホスベシト日本ニ通告シ
タノデアリマス。(d)
其ノ頃、一九三五年一月二十二日、議會ニ於ケ
テ充分ナル了解ヲ得タルモ、彼ハ、彼
等ノ政界結體ナルモノハ、吾等ノ脅威及ビ、相互
ノ脅威無キ兄弟ノ感情ヲアルト述ベテキマス。(a)

MP-91 MP-90

a、	抗議書	カニハ	抗議書	三四三三
a、	抗議書	ニホミ	抗議書	ニ四三八
b、	"	ニホミ	"	ニ四三八
c、	"	ニホミ	"	ニ四三八
d、	"	ニホミ	"	ニ四三八

一九三七年八月二十六日、駐米日大使「ヒニ」
ツテバル・ヒューゲツモ「島」其ノ乗車セル目
動車ヲ日本皇統經城ガ城郭射シ燃焼シタル際其傍
致シマシタ^(c)此ノ事件ニ關スル抗議ニ答ヘテ、廣
田ハ駐日米日大使ニ、右事件ニ關スル抗議ガ通メラ
レツツアル旨ヲ答ヘマシタ^(b)一九三七年九月二十
一日、廣田ハ事件ノ全貌ヲ説明シ、其ノ抗議書ガ日
本ノモノナルコトヲ認メテ、其ノ事件ニ關シテ遺憾
ノ意ヲ表シマシタ^(c)是ニ對シテ、九月二十三日美
日大使ハ右事件ハ令ヤ終レルモノト考ヘサレル旨通
ベタノテアリマシタ^(d)

MP-91 MP-90

象ヲ有シテキルト廣田ニ抗議シマシタ^(a)リト云フ印
ノ地域ニ於テ、經濟的方面ヲ求メツツアリト云フ印
ニ於テ、合衆國ハ日本ガ最初ハ東洋ニ於テ、次ニ他

HIROTA Summation-PP

集ヲ電達中ノ中国船ト誤認セラレタト説明シマシタ^(b)
彼ハ十二月二十四日及び二十六日附ノ通牒ニ於テ右
嫌疑ハ誤ツテ爲サレタコトヲ反復シ、重キテ、
意ヲ表シマシタ^(c) 廣田ハ美国大使ニ通牒ヲ發シ、
同事件ニ以附シ、右ハ誤ツテ行ハレタル事及び日本
ハ必長ナル賠償ヲ爲ス用意アル旨ヲ通ズマシタ^(d)
「ダルー」ハ十二月十三日に日記ニ「ズニイ」號ノ
沈没ニ就イテノ廣田ノ陳述ヲ記入シマシタ^(e) ソレ
ニモ拘ラズ、此等ノ事件が何れノ出来事デアルトノ
言辭ハ前述ノ證據ニ依ツテ眞實ナラザルコトが示サ
レ又廣田ハ眞實ナラザルコトヲ知ツテキタニ違ヒナ
イノデアリマス。

FF-94	b、	沈没船	11月11日	沈没船	11月11日
	c、	"	11月12日	"	11月12日
		"	11月13日	"	11月13日
	d、	"	11月14日	"	11月14日
	e、	"	11月15日	"	11月15日

PF-96

PF-95

PF-95

一九三八年一月三十一日「ダール」へ廣田ニ
對シテ、華北貿易ニ於テ或ル物品ニ對スル日本
保證ノ北平臨時政府ニ依ル最近ノ日稅率改正ニ
關シテ抗議シマシタ。彼ハ、米國ハ中國政府ノ
ミラスキスル權限ヲ有スルモノヲ考フルト述べ北平
臨時政府ノ不法ナル權限占取ヲ指摘シマシタ。
彼ハ、日本ハ此ノ政權ノ確立ニ責任ヲ有スルニ
依リ、米國ハ此ノ政權ノ行為ガ外國政府ノ權益
ニ影響ヲ及ボス此ノ際、日本ニ抗議ヲ提出スル
モノデアルト述べマシタ。彼ハ米國ハ華北ニ於
ケル個々ノ政策ニ關スル日本ノ暗々裡ノ責任放
棄ヲ受諾シ能ハサルコトヲ力説シタ。(a)

外見上、米國ガ日本ノ將來ノ軍事行動ニ關シ
テ持ツテ居ル疑ヲ除ク爲ニ、廣田ハ、一九三八
年五月十八日、「ダール」氏ト交渉シ近ヅキ比
律賓ニ對スル日本ノ計畫ヲ否定シ、米國ト會談
ヲ開始スルコトニ依ツテ風説ヲ除キ度イト述べ
マシタ。(a) ニモ關ラズ、彼ハ一九三六年六月三

2 法廷證

九七

法廷記錄

九七〇七

2 法廷證

九八

法廷記錄

九四九三

0159 0000 155

十日ノ決議ニハ首相トシテ参加シテ居タノデア
 リマス、同決議デ「英米ニ對シテ備ヘル一方
 蘇ノ脅ヲ除クコト」ヲ含ムコトニナツテ居ル
 日本ノ國策ノ基礎ガ決定サレマシヌ。(b) 此ノ主
 旨ハ一九三六年八月七日ノ會議ニ於イテ反復強
 調同會議ハ「東亞大陸ニ於ケル帝國ノ地位ヲ、
 相互ニ相依存スル外交政策ト國防ニ依ツテ、確保シ
 同時ニ帝國ヲ南洋ニ向ツテ前進發展セシムル」
 (c) 一設目的ヲ定メマシヌ。此ノ爲メノ具體的
 準備ハ一九三七年六月ノ五ヶ年計畫中ニ綴リ込
 マレ、其ノ寫ハ一九三七年七月廣田ニ送附サレ
 其ノ説明書ニハ彼ガ議長タル内閣企畫局ガ之ヲ
 取扱フベキコトガ、述ベテマリマシヌ。(d) 廣田
 ノ履歷書ニハ彼ハ一九三七年六月十日ヨリ一九
 三七年十月二十五日迄企畫院總裁デアツタトシ
 イテアリマス。(e) ガ、吾人「イノ」(音讀)ハ

FF-96

b	法廷證	九七七	法廷記	九五四二
	法廷證	九七八	法廷記	九五四八
c	法廷證	二一六	法廷記	二七二四
d	法廷證	二二七	法廷記	一、九八〇
e	法廷證	一〇八		

FF-97

一九三七年九月一日米國大使館發長田宛地書
 ニ於テ八月二十三日附南京ヲ爆撃シ、之ニ依ッ
 テ同地ノ外國人生命ヲ危險ナシメサル域トノ
 米國ノ要求ニモ拘ラズ、日本軍ハ八月二十六日
 夜同市ヲ爆撃シ米國人ノ生命及ヒ財産ヲ危險ナ

ノ後ノ暴行

第八南京空襲同占領及ヒ同地ニ於ケルソ

彼ハ實際ニハ企畫院ノ頭身テアル企畫局ノ總裁
 テアリ保險衛生省ノ構成ト密限ニ關スル草案ニ
 反對スル閣僚トノ政治的交渉ノ責任者デアツタ
 ト述ベマス。此ノ局ノ制限サレタ範圍ニハ
 ル彼ノ陳述ハ前記説明書ト一致シ難ク、依ツテ
 我々ハ直實デナイト主張シマス。此ノ内閣ハ一
 般毀階ニ於イテ我私フ國力總動員政策並ニ同法
 ニモ亦責任ガアリマス。

HIROTA Summation-FF

FF-97

a 法廷證九八八 法廷記録 九五八八

FF-98

a 法廷證三二八一 法廷記録 二九四八

FF-98

ラシメタル事實ニ注意ヲ喚起シマシタ。斯カル
攻撃中止ノ訓令ヲ陸軍部隊ニ發スル様要求シマ
シタ。(a)
九月二十日、「グループ」ハ南京地區無差別爆
撃ニ關スル再三ノ抗議ノ結果トシテ、日本政府
ハ處置ヲ請フツアルモノ、如シト証明シマシタ。二
十五日以後ハ爆撃ハ行ハレナカラウト言ハレテ
居リマシタ。(a)

FF-99 又一九三七年九月二十日「グルー」ハ廣田トノ會
談ニ於テ南京爆撃ガ不圖及ビ他ノ諸國ニ及ボスベキ
重大ナル影響ヲ指摘シマシタ。廣田ハ、東京政府又
官ハ軍隊ニ對シテハ、軍隊ノ一般目的ニ對スル場合
ニハ、殆ンド統制力無ケレドモ二十一日ノ爆撃ニハ
外國施設ヘノ損害ヲ避クル様注意スベキ旨ヲ命ジ置
キタリト回答シマシタ。(a)

FF-100 一九三七年九月廿二日、「グルー」ハ再び廣田ニ
對シ、軍ニ關係シキ者及ビ非戦闘員ハ爆撃セズトノ
日本ノ再三ノ保證ニ鑑ミ、不圖民ノ南京立退ニ對ス
ル要求ニ關シテ抗議シマシタ。(a) 此ニ對シ一九三
七年九月三十日、廣田ハ、南京ハ作戰ノ中心ナルヲ
以テ、南京内及ビ其ノ周邊ノ軍事施設ノ爆撃ヲ受ク
ベキコトハ避ケ難シト回答シマシタ。(b) ソレニモ
拘ハラズ、作戰終了後ニ於テサヘモ米國民ハ城内ニ
復歸スルコトガ不可能デアツタ、茲ニ於テ、一九三

FF-99 a 法廷證三二八二 法廷証三二九四九

FF-100 a 法廷證 九五六 法廷証 九五四八
b 法廷證二五三一 法廷証二二九〇

八年四月四日「グルー」ハ廣田ニ書ヲ寄セ、南京ハ
既ニ三ヶ月間占領セラレ居ルニモ向ラズ、米國民ハ
今尙城内ヘノ復歸ヲ日本軍部ニヨツテ阻止セラル居
ル事實ニ彼ノ注意ヲ喚起シマシタ。(c)

FF-101 一九三七年十二月十六日、英國大使ハ廣田ニ對シ
十二月十二日日本空陸部隊ニ依ツテ蕪湖ニテ又南京
附近ニテ英國軍艦及ビ船舶ニ加ヘラレタル攻撃ニ關
シテ抗議ヲ提出シマシタ。彼ハ元ノ保證ハ何等ノ
效果モ齎サザリシ旨及ビ懲罰ノミガ斯卡ル暴行ヲ防
止スル唯一有效ナル方法ナル旨ヲ述べマシタ。(a)
廣田ハ「クレイギー」ニ對シ南京附近ノ爆撃ニ陳謝
シ且再發ヲ防止スベシトノ保證ヲ與ヘマシタ。(b)

FF-102 一九三七年十二月十三日、日本軍ハ十二日ニ凡ユ
抵抗ガ止ンデ終ツタ後ニ、南京ニ入城シマシタ。

FF-100 c 法廷證 九七〇 法廷記録 九五〇一

FF-101 a 法廷證 九五四一〇 法廷記録 九四五一
b 法廷證 二五二七 法廷記録 二一三六七

0159 0008 151

カダ」(音讀)及ビ岡本ハ情況ヲ通知セラレ且本國
財產掠奪ノ件ニ關シ軍當局ノ注意ヲ喚起セラレ度シ
ト要求セラレマシタ。(b)「ヒカダ」ハ一九三八年
一月廣田外務大臣ニ對シ南京ノ狀況ヲ口頭ヲ以テ報
告シタト述べマシタ。(c)

FF-104 證人石井ハ該證行為ノ報告ハ藤井ニヨリ外務省へ
送達セラレ、廣田ハ石報告ニ關シ非常ニ憂慮シ且ツ
驚イタコトヲ證言シマシタ。國軍ハ之ヲ即刻停止ス
ルタメ嚴重ナル處置ヲ講ズル豫定ヲ求セラレ、遂ニ處
置ガ講ゼラレタ結果、一九三八年一月末迄ニハ該證
行為ハ根絶セラレマシタ。廣田ハ自カラ是等證行為
爲ヲ停止スルタメ嚴重ナル處置ヲ採ル様杉山ニ要請
シマシタ。(a)ソレニモ拘ラズ、石證人ハ一九三八
年二月二日迄モマダ該證行為ガ行ハレテキタコト、

FF-103
b 法廷證 三二八 法廷記録 四五五二
c 法廷證 二五三七 法廷記録 二、四五三

FF-104
a 法廷證 三二八七 法廷記録 二九七〇一ニ

0159 0008 1162

HIROTA Summation-FF

FF-104

c b

法廷記録三六九七八
法廷記録三六九八三

2-84

竝ニ同日迄ハ報告ガ入リツツアツタコトヲ認メマシ
タ。(b)同 是等ニ據行爲ニ據スル報告ハ全ベテ、外國
新聞ノ非難報道ト共ニ、長田ニ送達セラレタガ報告
ガ續々入リツツアツタ時デサヘモ、彼ハ同 變ヲ圖
湘ニ迫ラス、又内閣ニ計リマセンデシタ。(c)同 變ヲ圖

0159 00008 163

九、廣田ノ阿片專賣關與

FF-105

一九三三年九月ヨリ一九三七年二月マデ及ビ又一九三七年六月四日ヨリ一九三八年五月二十九日マデ閣員トシテ、廣田ハ閣員トシテ在職中モ又其後モ日本ノ明白ナ政策デアツタト、我々が主張スルモノ即チ中國ニ於ケル全日本占領地域ニ於テ麻薬ノ栽培ト使用トヲ奨励スル政策ニ對シテ、我々ノ主張デハ、責任ガアリマシタ。本件ニ關スル主ナ證據ハ三人ノ證人「ギル」、「ベイツ」及ビ「ローレス」ノ證言ニ見出スコトガ出來マス。(a)

FF-106

右證據ハ、甚ダ長期間ニ亘ル中國ノ全占領地域ニ於イテ麻薬ノ培養及ビ使用ヲ甚ダ奨励シタノデ是ガ日本政府ノ政策デアツタコトヲ示シテ居マス。例ヘバ「一九三八年度事務報告」(a)ト題スル日本外務省條約局ノ出版物ハ朝鮮生産ノ生阿片ヲ臨時措置トシテ將來滿洲國政府ニ譲渡スルコトニ關スル一九三三年四月ノ日本内閣ノ決議ヲ述ベテ居リ、

FF-105

法廷記録 四四〇七一ニ以下續ク

法廷記録 二六四八以下續ク

法廷記録 二六八三以下續ク

FF-106

法廷證

三八一

法廷記録

四七〇八

2.

八六五四三二〇八九

法廷記
法廷記
法廷記
法廷記
法廷記
法廷記
法廷記
法廷記
法廷記
法廷記
法廷記
法廷記

[illegible]

此ノ麻薬政策蔓延ノ確證ハ、中國各地ノ米國財務官ノ報告廣田ノ在職中ノ情勢ニ歸スル右報告^(a)ヲ含ム、ニ依ツテ知ルコトガ出來ス。

FF-107 a.

[illegible]

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z

[illegible][illegible]

FF-109

辯護側證人難波ハ、滿洲阿片專賣制ノ設置ハ阿片ノ販賣ト其ノ不正栽培トヲ抑制シタト主張シテ、滿洲及ビ北部諸省ニ於ケル全面的阿片問題ニ對スル訴追ヲ辯明シ去ラウトシマシタ。ソレニモ拘ハラズ彼ハ、阿片生産者ノ登録ハ簡易化サレ、又組織化サレタ栽培ガ奨励サレ、又日本人ハ阿片ヲ購買シ販賣スルコトヲ許サレナカツタノニ、同様ノ嚴格ナ處置ハ中國人ニハ適用サレ無カツタコトヲ認メマシ名(a)

一〇、廣田ノ退職後ノ行動

廣田ハ、政界ノ長老トシテ、各内閣ノ瓦解ニ際シ新首相ノ選擇ニ與ツテ力ガアリマシタ。此ノ資格デ彼ハ米内内閣ノ瓦解ニ際シ新首相ノ選定ガ爲サレタ一九四〇年七月廿一日ノ會議ニ列席シマシタ。廣田ハ軍人が良イト言ツタガ、彼ハ適當ノ候補者ガ無イノデ、近衛ハ軍部デモ評判ガ好イカラ、適任ダラウト考ヘマシタ。(a)

法廷記錄 二〇三〇八一五八

a、法廷證 五三二 法廷記錄 六二五二

FF-110 彼ハ又一九四一年七月十七日第二次近衛内閣
ヲ瓦礫ノ際、召集サレタ重臣會議ニ出席シ、ソコ
デ彼ハ參謀本部ノ強化ヲ主張シ、再ビ軍部内閣
ノ組閣ヲ唱導シタガ、木戸ノ宮中ニ於ケル參謀
本部ノ説明ニ依リ他ノ者ノ意見ニ同意シマシタ。⁽¹⁾
又一九四一年十月十七日木戸が東條ヲ彼が草
摺ニアツタニモ拘ラズ首相並ビ三陸相ニ推薦シ
タ時ニ列席シテヲリ、コノ任命ニ賛成シマシタ。⁽²⁾

FF-111 一九四一年十一月九日、重臣會議が開催サレ
東條ハ戦争ハ不可避デアルト説明シマシタ。表
近ニ到ル迄ノ對米交渉ノ進展ニ關シテ充分ナル
報告が首相ニヨツテ行ハレマシタ。近衛ハ彼ノ
内閣ハ日米關係ヲ調整セント分カシ來ツタガ、
以府ノ今朝ノ説明ニ基キ、彼ハ爾後ノ交渉ハ望
ミナキモノデアラウト辯論セザルヲ得ナイト報
告シマシタ。廣田ハ現下ノ危機ニ直面シタル後
直ニ戦争ニ突入スルハ誤リデアラウト考ヘ、ソ

FF-110	a、法廷證	一一一七	法廷記録	一〇一六八
	b、法廷證	一一五四	法廷記録	一〇三九一
	法廷證	一一三〇	法廷記録	一〇一八三

ИИ-112 ИИ-111

HH-111

陳南聲 / c
 陳南聲 / d
 陳南聲 / e
 陳南聲
 陳南聲
 陳南聲 / e

江	入	江	一
入	古	江	一
古	古	江	一
0	四	四	四
%	芝	一	一
入	四	一	一

— 1 —

〇	々	四	ノ	一
と	々	四	ノ	一
ハ	々	四	ノ	一
と	四	〇	ノ	四
江	四	四	〇	一
四	一	四	〇	一

翌日、彼ハ又他ノ貴臣會議（衆條ハ辭職シタ）ニ列席シ、同會議テ小畑ハ新内閣ノ首相ニ選バレタ、ソシテ同會議テ彼ハ城等遂行ガ第一番テアルト述ベマシタ。^(b) 貴臣ハ一九四五年四月五日、小畑内閣瓦解ノ際、哥ト宣合シ、鈴木貫太郎ヲ新内閣ノ首相ニ選ビマシタ。

55-112

一九四四年七月十七日、京條内閣ノ改造ヲ議
スル爲召集セラレタ冀臣會議テ、廣田ハ京條以
造内閣ニハ請ハシテモ參加シナイト進ベマシキ。

ノ延期ト、勃發後ノ或ハアリ得ベキ外交^{外交}決^決ツタ
是案シマシタ。陸、海軍、外務各大臣、企望託
總裁及ビ首相ハタ刻^刻眞臣ト合シ、情勢ヲ説明シ
タガ、此等二ツノ會議ノ由ニ、東條及ビ廣田ヲ
含ム元首相選ハ天皇ニ拜謁シ、陛下ハ各人ノ意
見ヲ聽取^{聴取}遊^遊バサレタノデアリヤス。⁽²⁾

於テ責任ヲ問ハレタル共同謀議ノ各々ニ、廣田
ガソノ一員タリシコトヲ立證シ、又ソレ故ニ、
コレヲノ共同謀議ヨリ起リシソノ他ノ訴因中ニ
阜立テラレシ特定事項ニ對スル彼ノ責任ノ證據
デアルト主張シマス。

シカシ、我々ハ既ル訴因ニ對シ直接證據ヲ示
ス次ノ特定ノ節ニ注意ヲ喚起シマス。

訴因第二及ヒ第二七、第三十乃至四十節ハ廣
田ガ一九三三年九月以降、滿洲侵略ヲ採用シ、
且ツ參加シタコトヲ示スモノデアリマス。

訴因第三、第六、第十九、第二十七、第二十
八、第四十五、第五十四及ヒ第五十五、第四十
一節乃至第八十五節及ヒ第一〇二節乃至第一〇
八節ハコレヲノ訴因ヲ取扱ヒ、特ニ訴因第五十
四及ヒ第五十五ニ就イテハ第一〇二節乃至第一
〇四節が取扱ヒマス。

訴因第五ハ第十一節乃至第十六節、第六十七
節乃至第七十節及第一〇九節ニ取扱ハレテ居リ
マス。

訴因第四及ビ第六乃至第十七ハ、名ヲ擧ゲラレタ
 ヲ及ビ名ヲ擧ゲラレザル諸國ニ對スル戦争ノ一
 般準備ニ因田ガ參與シタコトヲ取扱ヒマス。我
 ヲハ特ニ第九十六節ニ注意ヲ喚起シマス。同節
 ノ示ス所ニ依レバ、特ニ考慮セラレタ國々ハ米
 國（訴因第七及ビ第十三）、英、露（訴因第八
 乃至第十二）及上記ノ外南洋ニ領土ヲ有スル諸
 國、即チ「オランダ」（訴因第十四）、佛蘭西
 （訴因第十五）、泰國（訴因第十六）、及ビ露
 聯（訴因第十七）チアリマス。尚、第二英露
 部ニ因シテハ、第六十六節、米國及英國ニ因シ
 テハ、第八節乃至第二十九節及ビ第八十九節乃
 至第九十六節、露聯ニ因シテハ第四節乃至第十
 七節。
 上記諸國家ニ對シテ戦争ヲ開始シ（訴因第二
 十乃至訴因第二十五）且ツ戦争ヲ行ヒタルコト
 ニ對スル訴因ニ因シテハ、我々ハ門留ハ該期間
 中ニハ在戦シナカッタケレドモ是等ノ出来事ハ
 彼ニ對シテ既ニ立証シタト、我々ノ主張スル共

同謀議ノ結果ニ過ギザルコト及ビ其故ニ彼ハ是等ノ戦争ヲ實際ニ開始シ且ツ行ツタ彼ノ仲間ノ共同謀議者ノ行爲ニ對シテ責任アルコトヲ主張シマス。第一一〇乃至第一一三節ハ前總理大臣トシテノ彼ノ地位ガ同行爲ニ彼ノ個人的参加ヲ可能ナラシメタ其程度ヲ示スモノデアルト我々ハ信ズルモノデアリマス。我々ハ更ニ其中ニ述ベラレテキル會議ハ、彼ガ希望スレバ、共同謀議ヨリ脱退スルニ充分ナル機會ヲ彼ニ與ヘタモノデアルガ、彼ハ其等ノ機會ヲ捕ヘナカツタシ又ソウスル他ノ機會ヲ作ラナカツタト主張シマス。同ジ言葉ガ詠因第三十七乃至第四十二及ビ第四十六、第四十七及ビ第五十二ニモ當嵌リマス。

宣戰布告ノ無カツタコトニ基ク申立ニ關シテハ、廣田ガアノ様ニ特定ノ國家ニ對シテ攻撃ヲ開始スル意圖ニ就イテ知ツテ后クト云フ證據ハ無イケレドモ、中國ニ對スル戦争又ハ種々ノ戦争ガアノヤウニシテ開始セラレタト言フ事實ハ斯様ナ方法ハ廣田ガ當記者ノ一人デアルト我々が主張スル共同謀議ノ範圍内デアツタコトヲ示スコトヲ我々ハ指摘シマセウ。

HIROTA SUMMATION
FF ERRATA

第八八頁九行目「一〇、廣田ノ退職後ノ行動」ノ
次ニ左記
FF-109
ヲ挿入シ舊
FF-109
ヲ
FF-110
ニ訂正ス

有田ハ、廣田ガ一九三九年及ビ一九四〇年ニ於
テ御退トノ軍事同盟ニ反對ナリシコトヲ証言シマ
シタ。然シ作ラ、原田ニ依リマスト、一九三九年
八月十二日^(a) 木戸及ビ近衛ハ、平沼内閣瓦解ノ
際ハ次期首相候補トシテ廣田ガ適任ナルコトニ一
致シタノデシタ。平沼内閣ノ瓦解ハ、獨斷不可侵
條約前、既に最期セラレテキタノデアリマス。何
故ナレバ、近衛ハ彼ト實見シ、彼ノ意見ガ本問題ニ關スル陸軍
ノ意見、即チ平沼内閣ニヨリ採用セラレタル妥協
案トハ反對ニ完全ナル軍事同盟ニ賛スルモノト同
様ナルコトヲ知ツテキタカラデアリマス。^(b) 八月
二十四日ヨリ少シ前ニ、彼等ハ猶彼ヲ候補ノ第一
人看ト考ヘテキタノデアリマス。然シ、其ノ日ニ、
彼ハ此ノ見解ニモ拘ラズ或ハ此ノ見解ヲ知ラズシ
テ軍部ノ反對ニ關スル原田ノ報告ニ^(c) 基キ候補看タ
ルコトヲ願ヒ下ゲタノデアリマス。

FF-109
a、
b、
c、
法廷証三ハ〇七
法廷証三ハ〇七
法廷証三ハ〇七
法廷証三ハ七〇三
法廷証三ハ七〇六
法廷証三ハ六七七

HIROTA SUMMATION
FF ERRATA

第八頁註ラ左記ノ通り訂正ス

FF-110	FF-109	FF-108
a、	a、	第八頁註ラ左記ノ通り訂正ス
b、	b、	法廷記録二〇三〇八一五八
c、	c、	法廷記録三八七〇三
d、	d、	法廷記録三八七四六
e、	e、	法廷記録三八六七七
f、	f、	法廷記録六二五二

第八頁新行目ニ左記ヲ追加ス。

FF-111 末尾ニ左記ヲ追加ス。

FF-110 末尾ニ左記ヲ追加ス。

FF-111 末尾ニ左記ヲ追加ス。

FF-112 末尾ニ左記ヲ追加ス。

木戸ノ口供書第二一六節(°)ニ轉載セル長文ノ當時ノ「概観」ニヨリマスト、辭職ニ至リシ事項ニ關スル近衛ノ語ヲ十分ニ聞キタル上、廣田ハ次ノ如キ意見ヲ述べタノデアリマス。「吾々ハ中國事變ノ眞實中ニアルノデアルカラ、私ハ政治モ大本營ノ意向ヲ中心ニ行ハレサクレバナラスト思フ」――「私ノ考ヘテハ、研究ノ價值アル案ノ一ツハ、統帥部ヲシテ次期總理大臣ノ候補ヲ推薦セシメルコトデアル」。

第八頁註ラニ訂正ノ上末尾ニ左記ヲ追加ス。

FF-110	FF-111
o、	法廷記録三四四〇
p、	法廷記録二〇三〇八一五八

HIROTA SUMMATION
FF ERRATA

木戸が其ノ提案ヲ述べタル後、「總理大臣（東條）ニ國務相（明カニ陸軍大臣）ヲ兼務サセヨウト云フノハ木戸案デスカ」。木戸「サウデス」。廣田「ソレデハ、イイデセウ」。

第九〇頁
FF-112
ヲ
FF-113
ニ、
FF-113
ヲ
FF-115
ニ訂正シテ、左記新
FF-114

ヲ挿入ス

FF-114

廣田が外務大臣、總理大臣及ビ企劃院（總裁トシテ存在中ニ制定サレ、日本ノ戦争準備及ビ總動員ニ貢獻セル法律並ニ法令ニ關シテハ、亞細亞及ビ太平洋ニ於ケル侵略戦争内外準備概要ノFノ九、Fノ一八、Fノ一一、Fノ二〇、Fノ二二、Fノ二六、Fノ二八、Fノ三二及ビFノ六五ノ各節ニゴザイマス。

第九〇頁註中ノ
F-111
ヲ
F-112
ニ、
F-112
ヲ
F-113
ニ訂正ス

ERRATA-FE

「廣田弘毅」正誤表（其ノ二）
 ◎第1頁 最後ノ三行半「然」シ空原監人ハ「
 ……通ベタノデアリマス。」^(b)ヲ左ノ如ク訂
 正ス。

「然シ証人並原ハ、此等ハ廣田ノ公式ノ考ヘテナ
カツタノデアルカラ、之ヲ云ツタノハ何方外ノ動
機ヲ有ツテキタニ相違ナイト云ツテ、此ノ印象ヲ
弱メヨウトシタノデシタカ、然モ彼自身其ノ時ノ
廣田ノ言集ヲ立証シタノデアリマシタ。」^b

◎第四卷： 1 q 5 7 1 6 2 3 4

b
 © 第六次 修正 第七
 修正「-----」
 正ス。

法律記録ニ「-----」
 最初ノ十二年「-----」
 (a) アリマス。」マデヲ在ノ如ク前

「一九三三年六月二十六日、坂田ノ外務大臣
任命ニ先立テ、日本ニヨル東京鐵道買収ノ爲メ自
豪間ニ交渉ヲ開始サレタノデアリマス。」

HIROTA SUMMATION

ERRATA-FF

廣田ハ外相トナルヤ、右交渉ヲ繼續シ、交渉ハ一
九三五年三月二十三日意見ノ一致ヲ見終
アリマシタ。此ノ沿革ハ、本最終報告ノ
節ニ詳編ニ述ベテアリマス。然シ乍ラ、此ノ交渉
ハ日本側ノ相當ナ壓力ヲ伴ツタモノデシタ。一
◎第六頁ノ註中b。dノ各項ヲ削除ス。
◎第九頁六行目「シテ言及サレテ后リ、(e)」
ヲ「シテ言及サレテ后ルモノデアリマス。(a)」ニ
前正ノ上、同行「シカモ又---」以下本節ノ最後
「---シタノデアリマス。(b)」迄ヲ削除ス。
◎第九頁註ノb項ヲ削除ス。
◎第十一頁ノ末尾ニ左記ヲ追加ス。
「然シ乍ラ此ノ陳述ノ全ク虚偽ナルコトヲ示ス此
ノ秘密協定ニ就テハ何等言及サレテカツタノデア
リマス」。